

学校法人福岡歯科学園 平成19年度事業報告書

I 法人の概要

1 法人の目的

学校法人福岡歯科学園は、昭和48年に西日本唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系確立と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」及び全国に先駆けて高齢者福祉のための「介護老人保健施設」を設置し、さらに、全国初となる「口腔保健学士」認定専攻科を有する「福岡医療短期大学(歯科衛生学科・保健福祉学科)」を併設している。このように、今日まで一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士の養成及び教育・研究者を育成することを目的とし、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

2 設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況は表1のとおり。

表1 設置する学校等 (平成19年5月1日現在)

学校名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長 本田武司)	歯学部歯学科	昭和48年	6	120	720	602
	大学院歯学研究科	昭和60年	4	18	72	28
福岡医療短期大学 (学長 栢 豪洋)	歯科衛生学科	平成9年	3	80	240	281
	保健福祉学科	平成12年	2	60	120	67
	計			140	360	348
	専攻科歯科衛生学専攻	平成11年	1	10	10	10

施設名	区分	開設年度	定員(人)	1日当り利用平均(人)	年間利用延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長 松葉健一)	入所	平成14年	85	81.4	29,793
	通所	平成14年	20	16.4	4,773

3 出願者及び合格者等の状況は表2のとおり。

表2 出願者及び合格者等の状況

学校名	学部学科等名	平成19年度入学者				平成20年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	歯学部歯学科	387	366	141	96	337	301	152	96
	大学院歯学研究科	11	11	11	11	10	10	10	10
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	98	96	91	84	95	94	93	86
	保健福祉学科	29	29	29	27	25	25	25	25
	専攻科歯科衛生学専攻	10	10	10	10	9	9	9	9

4 教職員数は表3、表4のとおり。

表3 教員数

(平成19年5月1日現在)

	教授等	准教授	講師	助教	計
大学	31	21	32	53	137
短大	8	10	3	3	24
老健	1				1
合計	40	31	35	56	162

表4 職員数

(平成19年5月1日現在)

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員	医療職員	介護職員等	医員	合計
大学	45	9	6	17				77
短大	5							5
病院	8			4	78		69	159
老健	1			2	14	35		52
合計	59	9	6	23	92	35	69	293

5 役員・評議員・役職教職員は表5、表6、表7のとおり。(平成19年5月1日現在)

表5 理事・監事・顧問 14名

理事長	田中健蔵
常務理事	青野一哉
理事	本田武司
理事	栢豪洋
理事	荒川規矩男
理事	森山靖章
理事	宮口嚴
理事	厚谷彰雄
理事	田代英雄
理事	大石秀雄
理事	秋山治夫
監事	安倍徹
監事	長友泰明
顧問	岩崎光太郎

表6 評議員 26名

評議員	田中健蔵
評議員	本田武司
評議員	栢豪洋
評議員	石川博之
評議員	厚谷彰雄
評議員	香月俊博
評議員	甲斐正紀
評議員	本山久美子
評議員	青野一哉
評議員	松葉健一
評議員	中山宏明
評議員	中島與志行
評議員	荒川規矩男
評議員	森山靖章
評議員	田代英雄
評議員	大石秀雄
評議員	秋山治夫
評議員	染矢廣美
評議員	山本達雄
評議員	横倉義武
評議員	朔啓二郎
評議員	前原喜彦
評議員	宮口嚴
評議員	武井俊哉
評議員	吉田公典
評議員	高橋裕

表7 役職教職員

学長	本田武司
短大学長	栢豪洋
医科歯科総合病院長	石川博之
事務局長	厚谷彰雄
学生部長	北村憲司
情報図書館長	谷口省吾
口腔・歯学部門長	坂上竜資
全身管理・医歯学部副長	湯浅賢治
社会医歯学部門長	埴岡隆
基礎医歯学部門長	谷口邦久

II. 事業の概要

本学園は建学の精神に則り、学生のため真に実効のある教育を行い、高度の専門的能力と厳しい職業的倫理観、豊かな人間性を備えた有能な歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士を養成するため、「福岡歯科学園の中期構想（平成 17 年改訂）」（別添）を策定して、その実現に向けて様々な改革に取り組んでいる。

本学園における教育・研究・診療の一層の活性化の取り組みについては、平成 18 年度に大学が、大学基準協会及び日本高等教育評価機構の二つの認証評価機関から、平成 19 年度には短期大学が、短期大学基準協会から高い評価を得ることができた。また医科歯科総合病院は、平成 19 年度に日本医療機能評価機構の機能評価を受け、3 月に受領の「中間的な結果報告」では、全体的に高い評価を得ている。本学はこれらの第三者評価等を踏まえ、口腔医学、口腔保健衛生学及び介護福祉学におけるフロントランナーとして社会の期待に応えるべく、平成 19 年度事業を健全な財政運営のもと、次のとおり行った。

1 口腔医学の確立

今日の医歯学の進歩、社会医療環境の変化を踏まえ、さらに歯科医療の逼迫状態の改善等のためにも、「歯学（歯科）」から「口腔医学（口腔科）」に変更することが、口腔医学教育・口腔医療に対する社会の理解、医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士など医療人の意識向上を図る上で適切であるとの考えに立って、平成 19 年度は田中理事長、青野常務理事、本田大学長他、役職教職員が私立歯科大学及び福岡県歯科医師会等と意見交換を行うとともに、文部科学省、厚生労働省を訪問し、理解と支援を要請した。また、田中理事長等は「学術の動向」9 月号に特別寄稿として「【医歯一元論】で【知の統合】を」を公表し、平成 20 年 1 月には日本歯科新聞に「口腔医学の創設・育成と一元化の再考」と題して特別寄稿するなど、広く社会に対しアピールを行っている。

2 歯科医師国家試験等の対策

1) 福岡歯科大学は、第 100 回国家試験の合格率は第 99 回国家試験から余り改善されていなかったことから、引き続き全国的な模擬試験による相対的学力の把握と学習指導を行った。また、卒業試験及び再試験の問題作成に当たっては「卒業資格審査の基準と方法の改善に関する検討委員会」を設置し、問題のブラッシュアップを図った。しかし、第 101 回国家試験には、その効果が現れず、合格率も全国平均を下回った。今回の試験結果を見ると、今年度卒業生で不合格だったのは、殆んどが下位 30 名程度の学生であることが判明した。来年の第 102 回国家試験では、この問題にどう対処するかが喫緊の課題である。

2) 福岡医療短期大学歯科衛生学科は、歯科衛生士試験（国家試験）での 100%合格を目指して、専門基礎科目並びに専門科目の授業では国家試験問題の解説も含めて行い、平成 19 年度は 2 学年に対して国家試験の演習を 3 回、3 学年に対しては 15 回の演習を行った。演習の成績不振者に対しては、水曜日、土曜日に補習を行い早期に対応したが、第 17 回歯科衛生士試験では新卒 3 名、既卒 2 名が不合格となり、合格率は全国平均を下回る結果となった。なお、歯科衛生士試験不合格者については、科目等履修生として受け入れ、前・後期の歯科

衛生演習並びに後期の総合講義を受講させ、次年度国家試験合格を目指す計画である。

表8 第100回・第101回歯科医師国家試験結果

	第100回(平成18年度)			第101回(平成19年度)		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
新卒	110	87	79.1%	93	69	74.2%
既卒	30	12	40.0%	39	14	35.9%
合計	140	99	70.7%	132	83	62.9%
全国	3,200	2,375	74.2%	3,295	2,269	68.9%

表9 第16回・第17回歯科衛生士試験結果

	第16回(平成18年度)			第17回(平成19年度)		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
新卒	106	104	98.1%	98	95	96.9%
既卒	4	2	50.0%	4	2	50.0%
合計	110	106	96.4%	102	97	95.1%
全国	7,040	6,605	93.8%	6,361	6,103	96.0%

3 教育の改善・充実等

福岡歯科大学及び福岡医療短期大学は、平成19年4月から大学等の教員組織の整備に係る学校教育法の一部改正に対応するため、教員の身分(職名)を「教授」、「准教授」、「講師」、「助教」及び「助手」に変更した。

1) 福岡歯科大学

(1) 教育体制

口腔医学の推進及び医科歯科総合病院の充実のため、平成19年4月から「耳鼻咽喉科」及び「形成外科・口腔顔面美容医療センター」を開設するとともに、「耳鼻咽喉科学」(教授1名、助教2名)、口腔・顎顔面外科学講座に「口腔顔面美容医療センター」(講師1名、助教1名)を配置した。また、教育研究及び学術の国際交流を推進するため6名の客員教員及び4名の重点配置教員を配置した。

(2) 教育方法の改善等

① 実習重視型教育、態度教育、チュートリアル教育、Evidence-Based Dentistry

平成19年度から新たに第3学年に介護施設宿泊実習とEBM基礎演習を開講した。

卒業試験・国家試験・共用試験問題作成に関する指導者研修会、チュートリアル教育(小グループ別学習)・行動科学セミナー担当者研修を実施した。

平成19年4月「試験、成績の評価及び進級に関する規則」を改正し、仮進級学生に対する補講及び留級学生に対する指定再履修科目の受講を義務化し、対象学生の総合的な学力向上を図ることとした。また、同時に評価方法も変更し、常勤教員が実施する専門教育については定期試験を分割実施し、学年末に年間を通じて進級に必要な学力を判定する制度に移行した。

② 態度教育、「特色ある教育」カリキュラムの実施

高齢社会における口腔医療活動についての教育の充実を図るため、第1学年（介護施設見学）、第5学年（介護実習）で実施している併設介護施設を利用した実習教育を平成19年度から第3学年（介護宿泊実習）にも導入した。また、歯科医療人としての態度学習の一環として授業の出欠を厳格化し、授業に対する意識付けを行った。

③ 学生の授業評価

平成19年度に実施したすべての授業について、それぞれの授業を10時間以上担当した全教員に対して学生アンケートを実施し、各項目について前年度との対比をグラフ化し教育効果の検証を行った。

④ 意欲のない学生に対する適切な指導

欠席過多の学生に対する指導とともに、留級学生に対しては父兄を招致し、助言教員が面談を行うとともに、仮進級学生に対しても個別面談を行い、不合格科目の学力向上を図るため、該当する科目すべてで計画的な補講を実施した。

(3) 入学者の選抜方法

新たな選抜法としてAO入試を平成20年度入試から実施した。募集定員15名に対し51名の受験者があった。一次選考は理解力テスト、小論文作成、課題に対するレポートを期日までに提出させ、二次選考は提出させたレポートについての質疑応答及び個人面接を実施した。その結果、16名の合格者を決定した。また、AO入試で次代の歯科医学をリードできる有能な人材を確保するため、入学試験成績上位3名に一定の条件を満たした場合、卒業までの6年間・年額120万円の学術奨励金を支給する「福岡歯科大学AO入学試験合格者に対する学術奨励金支給規程」を制定した。

受験者数は、ここ数年全国的に減少傾向であるが、本学の今年度の受験者は全体で301名であり昨年度の約82%となった。

(4) 国際交流

平成19年4月に上海交通大学口腔医学院（中国）の張志勇教授ら教員3名と・学生4名が本学を訪れ、講演を行うとともに、今後の両校の交流のあり方について協議等を行った。平成20年3月16日から8日間、本学から湯浅賢治教授ら教員2名と学生9名が上海交通大学口腔医学院を訪問し、教育・研究・臨床における共同事業の検討等を行った。また、同口腔医学院より本学の客員教員として孫喆・准教授、李超倫・講師、孫健・准教授を迎え教員交流を実施した。平成19年10月7日から14日間、本川涉教授ら教員2名と大学院生4名が、韓国・慶熙大学校歯科大学（平成17年4月に姉妹校協定を締結）を訪問し、具体的交流を行った。平成20年1月6日から14日間、慶熙大学校歯科大学・李星馥教授ら教員2名と学生6名が本学を訪問し、特別講義や各診療科における研修等を受講し、相互交流が実現した。その他、大関教授ら教員2名が、3月ヤンゴン（ミャンマー）を訪れ、医療援助活動やヤンゴン歯科大学との交流について打合せを行った。また、大学院生1名（韓国）を私費外国人留学生として受け入れ、授業料を「私費外国人留学生授業料減免規則」に基づき減免（30%）した。

2) 福岡医療短期大学

(1) 口腔保健学士の認定専攻科

専攻科歯科衛生学専攻では、修了生が学士の学位授与を大学評価・学位授与機構に申請できるように交渉していたが、平成 19 年 3 月に「口腔保健衛生学に係る修得単位の審査の基準」が同機構により公表され、平成 20 年度から歯科衛生士の独自の分野で学士取得が可能となった。本学歯科衛生学科では審査基準に準拠したカリキュラム改変を行い、平成 19 年 9 月に専攻科認定申出を行った。同機構による審査の結果、平成 20 年度から全国初の「学士（口腔保健学）」の学位を申請可能な専攻科に認定された。

(2) 入学定員の確保

保健福祉学科における学生募集について、平成 19 年度 4 月より福岡市内と糸島・唐津地区を中心とした高校訪問のエリア担当を定め、効率的な高校訪問活動を実施した。また、新たにミニオープンキャンパスの開催（8 月）、随時オープンキャンパスの開催に加え、社会人を対象とした募集広告等を実施するとともに、12 月以降も随時 AO 入学試験を実施したが、25 名の入学にとどまった。近年の入学志願者の急激な減少等を踏まえ、平成 20 年 3 月開催の第 122 回評議員会及び第 401 回理事会で、平成 21 年度から入学定員を 60 名から 40 名に削減することを決定した。

(3) 教育方法の改善等

① 実習重視型教育、「特色ある教育」カリキュラムの実施及び施設・設備の改善

歯科衛生学科は、併設の介護施設サンシャインシティ並びにサンシャインプラザでの口腔介護臨地実習を継続して実施し、保健福祉学科は平成 19 年度よりサンシャインプラザでの介護実習を開始した。また、歯科衛生学科実習生と保健福祉学科実習生による口腔ケア相互学習を両施設において実施した。

平成 18 年度に文部科学省から選定された特色 G P の補助金（平成 20 年度までの 3 年間で約 2,400 万円）を活用し、地域医療・福祉への貢献のための実効的教育を展開している。

e-learning を含めた IT 教育に対応できる情報処理教育の充実と効率化を図るため、文部科学省から私立大学等研究設備整備費補助金等により、短期大学パソコン教室におけるパソコン 61 台を最新機種に入れ替えた。

② 学生の授業評価

講義を担当した教員全員（非常勤講師を含む）についての学生への授業評価アンケートを前・後期の授業終了後に実施し、その結果を集計し、レーダーチャートにして担当教員にフィードバックし、教育の改革・改善の資料にした。

③ 多様な学生に対応した将来の進路を含めた指導の実施

歯科衛生学科は、歯科衛生演習の成績不振学生に対して、水曜日、土曜日に補習を行うなどの早期対応を実施した。保健福祉学科は、欠席過多の学生に対する補習授業を実施した。成績不振学生に対しては、両学科とも学年担任と助言教員による父兄面談及び学生指導を行った。また、歯科衛生学科 2 学年 1 名の福岡歯科大学編入学希望者に対して進路指導を実施し、平成 20 年度入学に繋がった。

④ 資格取得支援教育

歯科衛生学科 2 学年 94 名が、訪問介護員（ホームヘルパー）2 級の資格取得講座「訪問介護技術」（135 時間）を受講し、平成 20 年 5 月に全員が資格取得予定である。

保健福祉学科卒業生全員（39 名）が介護福祉士資格及び社会福祉主事任用資格を、卒業生のうち 2 名がレクリエーション・インストラクター資格を取得した。

(4) 入学試験の選抜方法を検討し、学生の質の向上を図る

受験者のニーズと動向を考慮して、平成 20 年度入学試験から歯科衛生学科においても指定校推薦制度を設けた。また、社会人の「学び直し」のニーズにも対応できるよう、平成 20 年度入学試験募集要項に社会人入学試験の定義を明文化した。

(5) 国際交流

平成 19 年 9 月歯科衛生学科の 3 学年 67 名が東釜山大学（平成 16 年 12 月姉妹校協定締結）を訪問し、学生間の相互交流を行った。また、4 月 23 日に、韓国・東元大学（Tongwon College）の保健医療学課（学科）の学生等 25 名が保健福祉学科を訪れ、キャンパス内の介護老人保健施設サンシャインシティへの施設見学を含めた学生間での交流を実施した。

4 研究の活性化等

(1) 大学院の活性化等

平成 19 年度研究科委員会の下に「運営委員会」及び「企画委員会」の二つの小委員会を設置し、運営委員会は、従来どおり研究科委員会の審議事項等の整理を任務とし、企画委員会は、FDの企画・立案、定員充足率向上のための方策等大学院の活性化のための具体策について検討することとした。

大学院活性化の一方策として、平成 18 年度から大学院に特別奨学生制度が新設されたが、平成 19 年度は特別奨学生として 9 名が、また、大学院奨学生として 9 名を選考した。

また、大学院生 1 名を平成 19 年 6 月から 8 月までの 3 か月間、留学のためノースカロライナ大学に派遣した。その他リサーチ・アシスタントとして 7 名、ティーチング・アシスタントとして 16 名を採用した。なお、平成 19 年度は 9 名の課程修了者に博士（歯学）の学位を授与した。

(2) 学術フロンティア研究センター

福岡歯科大学における研究の一層の活性化を目指し、本年度も文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業の支援をうけて、「疾患における遺伝的、環境的要因の相互作用とその制御」の研究を実施した。この課題に関する研究計画を学内の教員から公募し、22 名の研究代表者に総額 3,100 万円の研究経費を配分した。研究成果は公開シンポジウム等で発表するとともに、研究成果報告書（平成 20 年 3 月刊行、708 ページ）に記載した。本年度は上記事業の最終年度にあたるので、その集大成のために次のシンポジウムを開いたが、第 2 回には、アメリカ、フランスから著名な研究者を招待し、英語で発表と討論を行った。

・第 1 回「ゲノムから疾患を考える」平成 19 年 7 月 10 日

・第 2 回「Genomic Stability in Control of Diseases and Aging」

平成 19 年 10 月 29 日

・第 3 回「口腔疾患と骨代謝の制御」平成 19 年 12 月 5 日

(3) アニマルセンター

平成 19 年 7 月に、動物の愛護及び管理に関する法律及び文部科学省の指針等に基づき、「福岡歯科大学・福岡医療短期大学動物実験規則」及び「福岡歯科大学・福岡医療短期大学動物実験委員会規則」を改正し、動物実験の実施及びアニマルセンター使用に必要な手続き等を明確にした。

(4) 教育研究経費の重点配分等

ア、福岡歯科大学は、教育研究経費のうち、128,458 千円を学長重点配分経費、学術フロンティア研究経費、学術振興基金事業経費として、10,000 千円を病院長重点配分経費として重点配分した。

イ、福岡医療短期大学では、学内プロジェクト研究のテーマに沿って学科の枠を超え、教員相互で共同研究を実施した。教育研究経費のうち、4,000 千円（各学科 200 万円）を共同研究費として重点配分した。

(5) 科研費等の外部資金の導入及び共同研究等の推進

① 科研費獲得等

平成 19 年度科学研究費補助金の獲得状況は、別表 1(大学)、別表 2(短大)のとおり。

平成 19 年 7 月に平成 20 年度科学研究費補助金の申請予定者を対象に、同補助金の獲得を目指し、申請のポイント等に関する説明会を実施した。また、文部科学省が定めた「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、科学研究費補助金等の競争的資金等の取扱いに関する学内管理体制を整備するため、「福岡歯科大学及び福岡医療短期大学における競争的資金等の取扱いに関する規則」等を制定した。

② 私学助成金、奨学寄附金等

私立大学等経常費補助金特別補助に申請のうち、福岡歯科大学は、大学院の基盤整備・拠点重点化支援として研究科分 5 件（12,618 千円）及び同学生分 22 件（6,110 千円）並びに教育・学習方法等改善支援として 7 件（11,127 千円）の助成を受け、福岡医療短期大学は、教育・学習方法等改善支援として 1 件（795 千円）の助成を受けた。その他、私立学校施設整備費補助金等として、福岡歯科大学における研究機器（クリオスタット）整備並びに福岡医療短期大学におけるアスベスト除去工事及び情報処理教育設備整備事業等に対して 20,317 千円の助成を受けた。また、福岡歯科大学に受託研究として 4 件（9,800 千円）、奨学寄附金として 20 件（8,910 千円）を受け入れた。

③ 共同研究、産学連携の推進等

福岡歯科大学は、企業や他大学等との共同研究 2 件、日本学術振興会から二国間交流事業及び独立行政法人科学技術振興機構等から 6 件の研究を受託した。

(6) 研究業績、海外研修派遣、学会助成等

ア、福岡歯科大学専任教員の平成 19 年度の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は 140 編、うち欧文は 56 編（別表 3）であった。また、研究の国際化を進展させるため、延べ 36 名を海外研修派遣（別表 4）した。その他、研究活性化策として、本学講座が担当開催した汎太平洋インプラント会議・第 6 回総会経費として 900 千円、第 14 回日本歯科医療福祉学会総会経費として 900 千円を助成した。

イ、福岡医療短期大学専任教員の平成 19 年度の総論文数（著書、原著論文、症例報告等）

は 29 編、内欧文は 3 編（別表 3）であった。また、研究の国際化を進展させるため、6 名を海外研修派遣（別表 4）した。

5 医療（医科歯科総合病院）

（1）患者数等

医科歯科総合病院の平成 18 年度・19 年度の外来患者・入院患者総数等は表 10 のとおり。

表 10 外来患者・入院患者総数等

	外来患者総数(人)			入院患者総数(人)		
	18 年度	19 年度	対前年比	18 年度	19 年度	対前年比
医 科	18,306	25,384	38.7%増	5,784	5,760	0.4%減
歯 科	115,657	114,474	1.0%減	5,056	4,707	6.9%減
合 計	133,963	139,858	4.4%増	10,840	10,467	3.4%減
1 日 当 り	494	519	5.1%増	30	29	3.3%減
平均在院日数	—	—	—	11 日	11 日	—
病床稼働率	—	—	—	59.4%	57.2%	2.2%減

（2）近接診療科の開設

医科歯科総合病院の充実等を図るため、耳鼻咽喉科、形成外科・口腔顔面美容医療センター・を平成 19 年 4 月から開設した。

（3）診療責任体制、医療サービス、情報公開

① 診療の責任体制の確立、情報公開

診療の責任体制確立のため、新患の診察は教授が担当している。また、平成 19 年度は診療録等の開示要求が 8 件あり、個人情報保護管理委員会で協議した結果、全件開示した。

② 各種委員会規則の整備及び新設の室・チームの設置

医療機関として質の高い医療サービスを提供し、病院機能を改善するため、各種委員会の任務の見直しを行った。また、その実行組織として、診療録管理室、医療相談室、栄養管理室、栄養サポートチーム(NST)、病診連携室、感染制御チーム(ICT)、医療安全推進チーム、緩和ケアチームを新設した。

③ 各種マニュアルや職員手帳等の整備

質の高い医療サービスの提供や病院機能改善を維持していくための手段として、HIS 運用マニュアル、災害応急対策マニュアル等計 16 のマニュアル類を整備した。また、職員手帳を作成し、本院医療従事者全員に配布した。

（4）診療参加型臨床実習

昨年度に引き続き、卒前の臨床実習では、実習協力に同意した患者様（原則学生 1 名に患者様 3 名以上を担当させる）を対象にした診療参加型実習を行っている。

（5）歯科医師臨床研修の充実

必修化 2 年目となる平成 19 年度歯科医師臨床研修は 4 月 2 日に臨床研修開始式が行われ、本田武司大学長から臨床研修歯科医に辞令が渡された。同月 8 日には、研修管理委員

会が開かれ、協力型臨床研修施設者との面談も行われた。研修は複合型研修方式により、福岡歯科大学医科歯科総合病院だけでなく、協力型臨床研修施設においても行われ（5ヶ月間）、70名の臨床研修歯科医が研修を修了した。併せて、協力型臨床研修施設拡充のため新たに2施設を協力型臨床研修施設として申請し認可を得た。なお、協力型臨床研修施設は取り下げ1施設を合わせ合計108施設となった。

(6) クリティカルパスの導入

①全部床義歯の作製、②上顎正中過剰埋伏歯抜去、③両側下顎枝矢状分割術、④麻酔抜髄術、⑤歯肉剝離搔爬術、⑥そけいヘルニア根治術に加え、⑦上顎洞炎根治術、⑧全身麻酔下歯科治療のクリティカルパスを新規作成した。

6 保健・福祉

(1) 介護老人保健施設サンシャインシティ

介護老人保健施設サンシャインシティは、開設して6年目を迎え(平成14年8月開設)、施設の目標として「飛躍」というスローガンを掲げて、利用者には選ばれる魅力ある施設を目指し、笑顔・優しさ・思いやりを持って勤めている。

また、教育施設として福岡歯科大学1、3、5学年及び福岡医療短期大学歯科衛生学科2、3学年、専攻科、保健福祉学科1、2学年ら延べ1,578名を対象に福祉実習、登院前実習、ヘルパー2級資格実習、口腔介護実習を実施した。また、外部資金の受け入れとして、施設設備(車椅子)の充実を目的とする寄付金100万円を受け入れることができた。これは、福岡県の介護老人保健施設協会の推薦により、西日本地区の高速道路のサービスエリアやパーキングエリアを運営する企業からの社会貢献の一環として寄付されたものである。

平成19年度の施設利用者数等は表11のとおり。

表11 サンシャインシティ施設利用者数等

利用者(定員)	年間利用延数(人)	稼働率(%)	対前年比	1日当り平均(人)
入所者(85人)	29,793	95.8	1.3%増	81.4
通所(20人)	4,773	82.0	3.3%増	16.4

(2) 介護老人福祉施設サンシャインプラザ

介護老人福祉施設サンシャインプラザは早5年目を迎え(平成15年10月開設)、施設の基本理念である「自立支援」をスローガンに入所者・利用者へのケアの向上の為、各種委員会で積極的に取り組みを行った。一部を紹介すると、脳活性委員会では地域の保育園の協力を得て入所者と園児が歌や遊戯を通してふれあう場を設けた。また、地元の老人クラブを中心に広がった交流の場を更に広げようと、同クラブ及び施設職員に声掛けして子供ボランティアを立ち上げ、夏休みを利用しての1泊2日のキャンプ・苦手科目の克服の為の勉強会を行い、家族からとても喜ばれた。恒例となった当施設のメインイベントである入所者・家族との1泊2日の旅行は3回目を迎え、今年度は9月26日、27日に佐賀県唐津市にあるホテルへの1泊旅行を実施した。次年度は地元のホテルで実施し、より多くの入所者が参加して楽しめるようにしたいと考えている。平成19年度の実習・研修生の受け入れは福岡歯科大学の第5学年の実習、福岡医療短期大学歯科衛生学科第2学年のヘルパ

一2級実習、第3学年の臨床実習、同短期大学保健福祉学科の現場実習など延べ1,551名の他、外部の福祉関係の学校や施設からの実習・研修生等で延べ1,002名と年々増加傾向にある。入所者への面会は、家族・友人・同郷の方と幅広く、約10,400名を超えた。平成19年度の施設利用者数等は表12のとおり。

表12 サンシャインプラザ施設利用者数等

利用者(定員)	年間利用延数(人)	稼働率(%)	対前年比	1日当たり平均(人)
入所者(100人)	35,360	96.6	0.4%増	96.6
ショート(10人)	3,027	82.7	8.1%増	8.3
デイ(20人)	4,437	72.0	12.0%増	14.4

(3) 介護職員等の処遇改善

本学園の介護老人保健施設サンシャインシティ並びに介護老人福祉施設サンシャインプラザを含めた介護現場における現状や課題、介護教育の問題点等を踏まえ、介護職員等の処遇改善のため、平成19年10月30日付けで田中理事長、栢短大学長、松葉介護老人保健施設長、藤田介護老人福祉施設長4名の連名で「介護福祉士希望者並びに介護施設従事者の確保について」(お願い)を、また平成20年2月4日付けで田中理事長、青野常務理事の連名で「介護福祉士及び社会福祉士制度の改正について」(お願い)を厚生労働大臣宛に送付し、情報提供や改善要望を行った。併せて介護老人保健施設、介護老人福祉施設の介護職員、看護職員等の俸給を平成19年4月に4号俸アップし、他施設に先駆け関係職員の処遇改善を行った。

7 大学連携事業

- ① 福岡歯科大学が参加している「西部地区五大学連携懇話会」(九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)は、教育、研究、地域貢献、職員研修の各ワーキンググループを設置し、具体的協議を行った結果、平成20年度から①共通講義、②九州市民大学講演会受講による単位取得、③講演会等の情報を各大学ホームページで共有することとなった。その他職員研修等についても実施していくこととなった。
- ② 平成17年度から地下鉄七隈線沿線の3大学(中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学)が、合同で開催しているシンポジウムを基点に、健康・食育・医療をテーマに教育・研究・地域との交流について連携協力するため、平成19年8月に「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」を発足させるとともに、目的達成のため、ワーキンググループを設置し、具体的協議を進めることとした。

8 社会貢献の拡充

本学園では、歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士を養成し、キャンパス内に医科歯科総合病院、介護老人保健施設、介護老人福祉施設を設置しているという特色を生かし、高齢社会における大学の地域貢献のモデルづくり等を目指し、地域貢献(別表5)、公開講座等(別表6)を展開した。

9 管理運営の改善等

(1) 認証評価機関等による第三者評価

ア、福岡歯科大学は、平成 18 年度に大学基準協会及び日本高等教育評価機構の二つの認証評価機関の評価を受けた結果、平成 19 年 3 月に両機関からそれぞれ大学評価基準に適合しているとの認定を受けた。その認定期間は 7 年間となっている。

イ、福岡医療短期大学は、平成 19 年度に短期大学基準協会による第三者評価を受けるため、短期大学長、ALO（第三者評価連絡調整担当責任者）及び自己点検評価委員会を中心に、書面調査に必要な自己点検・評価報告書等を組織的に取り纏め、平成 19 年 6 月に同協会に提出した。さらに、9 月に同協会評価員 5 名による訪問調査を受けた。これらの調査に基づく第三者評価の結果、平成 20 年 3 月に「適格」と認定された。

ウ、福岡歯科大学医科歯科総合病院は、日本医療機能評価機構による第三者評価を受けるため、病院機能評価委員会を中心に各種のマニュアル、統計資料、院内環境等の整備を行うとともに、必要な設備改善や新たな委員会及び診療録管理室等を立ち上げた。平成 19 年 9 月には、特定非営利活動法人ホスピ福岡 NPO による病院機能評価支援事業による指導を受け、また、平成 19 年 12 月には、本年度病院機能評価の認定証を受けた日本歯科大学歯学部附属病院を訪問し、問題点等を確認・相談した。平成 20 年 1 月 23 日、24 日に日本医療機能評価機構による訪問審査を受け、平成 20 年 3 月 5 日付の中間的な結果報告において、総じて良い評価ではあったが、評価 2 以下の項目 2 点（改善要望 1 点、報告書指摘事項 1 点）の指摘を受けたため、平成 20 年 4 月初旬の改善報告書の提出に向けて準備を行った。

(2) 短大学長、役職教員の改選等

福岡医療短期大学の栢豪洋学長の任期が平成 20 年 3 月末で満了になることに伴い、第 400 回理事会（平成 20 年 2 月開催）で短期大学長再任の件が、審議・決定された。

福岡歯科大学は、平成 19 年 4 月から大学運営の要となる役職教員として、病院長に石川博之教授、口腔・歯学部門長に坂上竜資教授、全身管理・医歯学部門長に湯浅賢治教授、社会医歯学部門長に埴岡隆教授、基礎医歯学部門長に谷口邦久教授が就任した。なお、平成 20 年 3 月末で任期満了となる学生部長、情報図書館長については、第 400 回理事会（平成 20 年 2 月開催）において北村憲司教授、谷口省吾教授の再任が決定された。

(3) 人事考課制度の確立と人材育成

① 教職員の考課制度の確立及び処遇への反映

人事考課結果をより処遇に反映させるため、平成 19 年度から年度末手当の支給率の上限を俸給月額額の 100 分の 100 から 100 分の 150 に引き上げ、下限を 100 分の 10 から 0 に引き下げることにし、「学校法人福岡歯科学園年度末手当規則」を改正した。また、平成 20 年 3 月、全教職員を対象に考課制度に対するアンケート調査を実施し、よりよい人事考課を目指して検討を行っている。

② 任期制教員の再任

平成 17 年 4 月からスタートした教員任期制発足後初の任期終了（平成 20 年 3 月末）となる教員（大学・助教 15 名、短大・助教 1 名）の再任審議を人事考課結果（学校法人福岡歯科学園教員の任期に関する規程）に基づき行い、再任申請者全員の再任を決定した。

③ 人材育成

ア、福岡歯科大学では、大学院設置基準が改正施行され、授業内容等の改善を図るための組織的な研修及び研究（いわゆるFD）の実施が義務化されたことに伴い、新たに「福岡歯科大学FD委員会」を設置し、FDの推進を実施することとした。平成19年度のFD関連事業として3回の講演会（「激変する歯科界の現状と将来：明海大学 赤石客員教授・理事」等）及び2回のワークショップを実施した。

イ、福岡医療短期大学では、全教員が講師を担当するFD講演会を毎月1回実施した。講演内容は、担当講師の教育方法の工夫、口腔介護教育、研究に関する報告などに関するものであった。

ウ、事務職員の資質向上を目指し、学外の各種研修会への参加を促進した結果、事務職員延べ52名が能力向上セミナー、資格講習会等（別表7）に参加した。学内では、本学園の運営に関する基礎知識の修得を目的に、新採用職員（5名）を対象とする研修及び係長・主任（13名）を対象に学園中期構想を主に本学の現状と課題についての共通認識を深めるための「理事長講話」等の研修を実施した。また、病院内では、HIS運用円滑化のための研修会等（別表8）を実施し、病院職員の能力向上等に努めた。

（4）国家公務員準拠の給与改定等

① 国家公務員準拠の給与改正については、本学の人事考課制度との整合性等を勘案し、第386回理事会（平成18年11月開催）で決定し、平成19年4月から適用した。併せて、介護老人保健施設、介護老人福祉施設の介護職員、看護職員の処遇改善（4号俸アップ）も同月から適用した。また、平成19年度の国家公務員給与改正に伴う「学校法人福岡歯科学園給与規程」改正は第398回理事会（平成19年12月開催）で決定し、平成19年4月に遡り適用した。

② 退職金支給基準等について、国家公務員及び近郊大学と比し、大きな差異があること等から退職金制度の見直し・検討を開始した。

③ 一般職等の定年後の継続雇用制度導入に係る「学校法人福岡歯科学園定年再雇用規程」に基づき3名（事務職1名、技術職1名、技能職1名）を再雇用した。

④ 国の「育児・介護休業法」改正等に伴う本学園「育児・介護休業等に関する規則」、「母性健康管理の措置に関する規則」、「就業規程」等の関連諸規程の改正を第397回理事会（平成19年11月開催）で決定した。

（5）セクシャル・ハラスメント対策

セクシャル・ハラスメント防止に対する意識を強化するため①「学校法人福岡歯科学園就業規程」を改正し、サービスの心得の中にセクハラ防止の項を新たに設けた。②12月に外部から講師を招き、全教職員を対象に「セクシャル・ハラスメントの防止」について講演会を行った。③平成20年1月にセクハラ防止のためのパンフレットを作成し、教職員、学生に配布してセクハラに対する啓発に努めた。

10 情報化の整備・充実

（1）情報システムの整備

① 病院IT化の推進

平成19年度から従前の病院医事会計システムを更新する必要があるため、医事会計・オーダーリング及び予約を中心とした新しい病院情報システム（HIS）が導入され、平成19年7月2日から稼働した。また、11月には情報システム委員会に下部組織としてHIS作業部会が設置され、HIS操作の教育及び管理運営にあっている。

② 事務システムの構築

平成20年3月で事務システムサーバーの保守契約が終了すること及びサーバーを新規導入した場合、現システムでは対応できなくなる等から、他大学の状況等を調査した上で新規システムを平成20年10月を目途に導入するべく準備を進めている。平成20年2月には、開発チームが九州歯科大学を訪問し、現状視察を行った。

(2) ホームページの充実等による情報発信

学園ホームページについては、毎月、情報システム委員会・ホームページ委員会合同会議を開催し、各委員から意見を聴取して管理運営を行ってきたが、最新の情報をより速く提供するために組織運営体制を見直し、広報委員会の中で少人数のホームページ作業部会に改組し、迅速化を図った。また、内容充実及び各部門のホームページに統一感を持たせるため、トップページの簡素化を含めたリニューアル作業により、全面改訂を行った。さらに、毎週、全委員によるホームページチェックを委員長のもとで行っており、最新の情報が発信できるよう努力している。

11 キャンパスの整備・充実

(1) 災害対策

災害予防、災害応急対策等必要な災害対策の基本を定めるため「学校法人福岡歯科学園防災基本規程」を平成19年10月に制定し、当該防災基本規程に基づき、「福岡歯科学園防災マニュアル」、「福岡歯科大学医科歯科総合病院災害応急対策マニュアル」等を定め、緊急時に対応することとした。

(2) 施設・設備の整備充実等

① 福岡西方沖地震等が発生していることから、本館の耐震診断を実施した。平成20年度は短大・病院・アニマルセンターの耐震診断を予定している。

② 本館の冷・暖房の熱源として稼働してきた吸収式冷温水発生器等の取替え工事を平成20年5月末完成予定で実施している。また、駐輪場不足を解消するため、平成19年10月に車庫南側、守衛室西側に駐輪場を増設（60台分）した。設備については、文部科学省の研究設備整備費等補助金を受けて、あらゆる凍結標本に対応可能な「クリオスタット」を平成20年3月福岡歯科大学学生体構造学講座（実験室）に設置した。

③ 福岡医療短期大学は、文部科学省の施設整備費補助金を受け、機械室、焼却炉、倉庫の「アスベスト除去工事」を行うとともに、2階研究室の給排水設備を整備し、教育・研究体制の充実を図った。また、従来の報処理教育を効果的に行うことだけでなく、画像情報処理教育やデータベース活用能力の養成を図るため、文部科学省の補助を受け「医療系学生のための情報処理教育設備整備事業」を実施した。

(3) 敷地内全面禁煙

快適なキャンパスを目指し、これまで進めてきた禁煙推進計画を更に促進するため、平成19年12月から学園敷地内の全面禁煙（患者様を除く）を実施した。

12 財政の健全化

(1) 資産運用による収入増及び経費節減

特定資産等の運用については、近年、基本金組入れに伴う運用可能な資産の増加と確定利付債券から一部変動利付のものを購入する等の対応を講じた結果、資産運用収入は840,554千円となり、前年度比70,807千円増(9.2%増)と高い伸び率となった。また、帰属収入に対する割合も12.2%となり、法人全体の収入に貢献した。一方、支出面では、光熱水費や学内ネットワークの保守料に加えて物品等廃棄の際の手数料についても各研究室、事務室等の受益者が負担する形をとって、一層の経費節減を図った。

(2) 管理部門の業務効率化及び人員配置の適正化

平成19年4月、経理課（財務係、出納係）と管財課（用度管理係）を統合し、財務課（財務係、出納係、用度管理係）とするとともに、調達業務に係る「学校法人福岡歯科学園調達規程」を改正するなど、財務部門に関する業務の効率化を図った。その他、固定資産に係る会計処理の適正化を目的に「学校法人福岡歯科学園経理規程」を改正し、また、旅費支給に関する事務の簡略化や競争的資金等の適正支給のための見直しを行い、平成20年1月から実施した。また、人員配置の適正化等のため、短期大学事務課及び介護老人保健施設事務課職員各1名並びに運転手（総務課）1名の削減を行った。

13 その他

(1) 役員・教職員の受賞等

平成20年3月27日に開催された日本私立大学協会理事会・総会において、田中健蔵理事長が同協会の役員として永年に亘り、私立大学の振興とその使命達成に専念し、教育の充実発展に盡力されたとして、永年功勞役員として表彰された。

(2) ヒポクラテスの木

平成19年12月福岡大学病院長及び医学部長から福岡大学病院新診療棟建設竣工記念樹として、本学2期生が寄贈した「ヒポクラテスの木」を恵与いただきたい旨の依頼があり、平成20年3月に譲渡した。

(3) 父兄後援会・学生共済会・同窓会及び社会福祉法人「学会会」との連携等

① 7月から8月にかけて17地区で開催された父兄後援会支部懇談会に、本学から本田学長及び役職教員が出席し、本学の現況、学生の学業成績等について説明し、父兄の協力を要請するとともに父兄からの要望も聴取した。また、5月には父兄後援会の役員と学園理事長や本学教授等との懇談が実施され、その際、支部懇談会と併せ学生に対する就学環境の整備等についての意見交換を行った。

② 本学園理事長が、理事長を兼務する学生共済会は、3月及び5月に理事会と代議員会の合同会議を開催し、本学学生共済のために実施する諸事業について審議し、年間の事業計画を決定した。また、新規事業の展開等学生に対する福祉・共済事業のあり方についても

検討し、学生の就学支援の充実を図っている。

- ③ 同窓会とは、毎年5月に開催される同窓会定時総会懇親会に理事長他役員が出席し、意見交換を行い、連携を図っている。
- ④ 本学園理事長が、理事長を兼務する社会福祉法人「学会会」（介護老人福祉施設サンシャインプラザ）とは、毎月、施設で開催される運営会議や年中行事に田中理事長等が出席し、学園との連携を図っている。

Ⅲ. 財務の概要

1) 資金収支の状況

平成 19 年度資金収支計算書の収入額は 88 億 8,585 万 7 千円で、前年度からの繰越支払資金 17 億 3,239 万 5 千円を加えると、収入合計で 106 億 1,825 万 2 千円となっている。支出額は 91 億 5,395 万 5 千円となっており、差引 14 億 6,429 万 7 千円の次年度繰越支払資金となった。(別表 9)

2) 消費収支の状況

平成 19 年度消費収支計算書の帰属収入合計額は 69 億 969 万 5 千円で、本館・病院改築資金としての第 2 号基本金引当資産に 6 億円、教育研究基金及び奨学基金等の第 3 号基本金引当資産に 13 億 2,108 万円を組入れたため、基本金組入額を差引いた消費収入の部合計額は 49 億 1,648 万 9 千円となっている。消費支出の部合計額は 57 億 2,734 万 7 千円で、差引 8 億 1,085 万 8 千円の当年度支出超過となり、前年度からの繰越消費収入超過額 46 億 7,441 万 1 千円と基本金取崩額 2,259 万円を加えると 38 億 8,614 万 3 千円の翌年度繰越消費収入超過額となった。(別表 10)

3) 貸借対照表

平成 20 年 3 月 31 日（平成 19 年度末）現在の貸借対照表資産の部合計額は、516 億 1,290 万 9 千円で、負債の部合計額 38 億 679 万 2 千円を差引いた正味財産は、478 億 611 万 7 千円となって、18 年度に比べ 11 億 8,234 万 8 千円の増となっている。(別表 11)

4) 財務比率表

財務比率表の内、貸借対照表関係の総負債比率（総資産に対する総負債の割合）は、平成 19 年度末で 7.4%となっており、全国平均 15.2%（平成 18 年度）をかなり下回っている。消費収支関係の人件費比率（帰属収入に対する人件費の割合）は、平成 19 年度で 51.8%となっており、全国平均 49.9%（平成 18 年度）を若干上回った。教育研究経費比率は、26.9%となっているが、教育研究用機器備品費等の設備関係支出を含めると帰属収入に対する割合は、29.1%となる。(別表 12)

5) 資産運用収入

平成 19 年度の資産運用収入は 7 億 9,011 万 5 千円（施設設備利用料及び短期運用収入等を除く）で、運用可能資産(特定資産等)に対する利回りは約 2.01%となっており、近年の低金利下において相応の成果をあげており努力がうかがえる。

6) 基本金組入れ

本館・病院改築資金としての第 2 号基本金引当資産は、組入計画（年間 6 億円）どおり、平成 19 年度末で 70 億円となっている。また、平成 19 年度には福岡歯科大学における教育研究の振興を図るため教育研究基金に 5 億円を組入れて総額を 125 億円に、学部学生及び大学院

学生に対する奨学事業充実に必要な運用果実の確保のため奨学基金に 8 億円を組入れ総額 18 億円とした。

7) 財務情報公開

財務情報公開については、学園の利害関係者（在学生、保護者、教職員等）から請求があった場合は、財務課に設置している財務書類及び事業報告書を開覧に供している他、学園広報誌「ニューソフィア」及びインターネット上のホームページにも掲載しており、積極的に公開している。

8) 経年比較

資金収支総括表、消費収支総括表、貸借対照表、財務比率表の経年比較（5年間）及び帰属収入・消費支出構成比率表（別表 13）、年度別推移表（別表 14）を添付した。いずれも特に問題なく順調に推移している。

9) その他

平成 19 年度は、経常的経費に対する補助の他、施設・研究設備整備事業に対する助成として、文部科学省から研究設備整備費等補助金 9,292 千円（クリオスタット整備：3,990 千円、医療系学生のための情報処理教育設備：5,302 千円）、施設整備費補助金 11,025 千円（アスベスト除去工事）を獲得した。

別添 福岡歯科学園の中期構想（改訂）

わが国の高等教育、ことに私学を取り巻く環境は、少子化、高等教育の大衆化、財政事情などにより、今後益々厳しくなると考えられる。歯科医療環境にも、歯科医療費の抑制、歯科医師需給、歯科医師臨床研修など、多くの課題がある。

本学園は、人類の幸福、医療の向上、歯学の発展に貢献できる特色ある学園として、質の高い歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士等の養成に努めてきた。そして、教育・研究・診療についての自己点検評価をふまえて、学生が意欲を持って学び、卒業生が誇れる母校、地域の歯科医療・保健・福祉への貢献、歯学の進展への寄与を目指して、「新世紀へむけての将来構想」（平成12年8月）を策定し、更に平成16年以降の「中期構想」（平成16年5月）を策定して、その実現に努力し、「世界の福岡歯科大学」を目指してきた。平成17年8月より、学園役員が新しい任期を迎えるにあたり、この中期構想（平成16年度から平成21年度）を改訂して、その実現のために教職員が一致協力して努力することにした。

個々の項目を具体的に審議検討し、その実現に努力するものである。

中 期 構 想

1. 口腔医学の確立

口腔医学としての学問体系を確立し、社会、学界、医療界の理解、協力を得るよう努力する。

2. 認証評価機関による第三者評価

福岡歯科大学は、平成18年度に大学基準協会、日本高等教育評価機構の評価を受け、福岡医療短期大学は、平成19年度に日本短期大学基準協会の評価を受ける。

3. 教員組織の改組等

大講座制を更に充実させ、教員の重点的配置を行う。

4. 教育の改善等

1) 実習重視型教育、チュートリアル教育、Evidence-based dentistry を目指して、教員の意識変革を行い、教育カリキュラムおよび施設・設備の改善を行う。

2) 態度教育を重視し、「特色ある教育」のためのカリキュラムを実施する。

3) 国試対策、共用試験対策を充実する。

4) 学生による授業評価を検討する。

5) 意欲のない学生には、将来の進路を含め適切な指導を行う。

6) 入学試験の選抜方法を検討し、学生の質の向上を図る。

5. 研究の活性化等

- 1) 大学院の拡充整備。大学院の奨学制度を検討し、研究環境の改善に努める。
- 2) 学術フロンティア研究センターの充実を図る。
- 3) COEを獲得する。
- 4) 教育・研究費の重点配分を行い、人材育成に努める。
- 5) 科研費獲得に努力する。
- 6) 協同研究（大学院学生を含む）、産学連携を推進する。
- 7) 社会人受け入れを検討する。

6. 国際交流の促進

姉妹大学協定の締結、協同研究、留学生の受け入れ、学生の交流を推進し、真の国際交流を目指す。

7. 病院拡充等

- 1) 患者増を図り、学生の診療参加型臨床実習及び歯科医師臨床研修を充実させる。病床増を検討する。
- 2) 診療の責任体制を確立する。情報公開を行う。
- 3) 近接診療科を開設する。
- 4) 研修医員、病院医員等の処遇を検討し、人材育成に努める。
- 5) 病院のIT化を推進する。
- 6) クリティカルパス導入を検討する。
- 7) (財)日本医療機能評価機構の評価を受ける。
- 8) 介護老人保健施設、介護老人福祉施設等を充実し、地域の保健・福祉への貢献とともに、教育・研究の場として活用する。

8. 老朽化した教育・研究・診療の施設・設備の更新

マルチメディアを設置し、実習機材を整備する。

9. 複数学部化の検討

口腔衛生、保健福祉、臨床心理、環境等の領域の学部開設を検討する。

10. 福岡医療短期大学の充実

(1) 歯科衛生学科

- 1) 3年制の充実を図り、学部移行を検討する。(口腔衛生学部)
- 2) 専攻科は大学評価・学位授与機構による認定を得るよう努力する。
- 3) 資格取得支援教育を行う。

(2) 保健福祉学科

- 1) 入学定員を確保する。
- 2) 資格取得支援教育を行う。
- 3) 3年制への改組を検討する。

11. 地域貢献の推進

公開講座、ボランティア活動等を推進する。

12. キャンパス構想

- 1) 学園用地を活用、整備する。
- 2) 干隈用地の活用を検討する。

- 3) 本館、病院棟の改築を検討する。
13. 教職員の考課制度の確立と処遇の改善等
 - 1) 教職員が明るく楽しい職場環境をつくり、人材育成を含めてその職務を全うし、学園の活性化にも寄与することを目指して、考課制度を確立するとともに、処遇（俸給、期末手当、年度末手当）に反映させる。
 - 2) 任期制を定着させる。
 - 3) 年俸制の導入を検討する。
14. 人材育成

教員、職員の質の向上、能力の向上のため、学会・研修会等への積極的派遣を含めて、人材育成に努める。
15. 学園財政の健全化
 - 1) 支出を節約し、資産運用による収入増を図る。
 - 2) 管理部門の業務、人員配置の効率化を図る。
 - 3) 外部資金（科研費・私学助成金、奨学寄附金等）の導入を積極的に行う。
 - 4) 学納金の見直しを行う。

別表1 平成19年度 科学研究費補助金決定状況（間接経費含む）

【福岡歯科大学】

（額の単位：千円）

区分 種類	平成19年度						平成18年度						前年度比較増減						
	申請件数	申請額	決定件数	決定額			申請件数	申請額	決定件数	決定額			申請件数	申請額	決定件数	決定額			
				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計	
文部科学省	特別推進研究	1	117,350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	117,350	0	0	0	0
	特定領域研究	2 (1)	7,200 (2,200)	1 (1)	2,200 (2,200)	0	2,200 (2,200)	5	26,790	1	2,100	0	2,100	-3	-19,590	0	100	0	100
	若手研究(A)	0	0	0	0	0	0	1	6,262	0	0	0	0	-1	-6,262	0	0	0	0
	若手研究(B)	63 (13)	128,158 (12,800)	17 (12)	20,100 (11,600)	0	20,100 (11,600)	68 (5)	150,037 (3,900)	15 (5)	21,100 (3,900)	0	21,100 (3,900)	-5	-21,879	2	-1,000	0	-1,000
	小計	66 (14)	252,708 (15,000)	18 (13)	22,300 (13,800)	0	22,300 (13,800)	74 (5)	183,089 (3,900)	16 (5)	23,200 (3,900)	0	23,200 (3,900)	-8	69,619	2	-900	0	-900
日本学術振興会	基盤研究(S)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	0	0	0	0	0	0	0	1 (1)	10,700 (10,700)	638	11,338 (10,700)	0	0	-1	-10,700	-638	-11,338	
	基盤研究(B)	12 (4)	82,039 (15,600)	6 (4)	27,100 (15,600)	8,130 (4,680)	35,230 (20,280)	13 (5)	68,262 (12,300)	7 (5)	28,800 (12,300)	4,648	33,448 (12,300)	-1	13,777	-1	-1,700	3,482	1,782
	基盤研究(C)	65 (12)	136,127 (10,800)	20 (12)	25,500 (10,800)	7,650 (3,240)	33,150 (14,040)	55 (14)	103,937 (12,200)	21 (14)	22,600 (12,200)	0	22,600 (12,200)	10	32,190	-1	2,900	7,650	10,550
	萌芽研究 ※ H19年度から 学術振興会に移管	33 (1)	79,921 (600)	3 (1)	3,000 (600)	0	3,000 (600)	39 (6)	80,873 (5,500)	5 (5)	4,500 (4,500)	0	4,500 (4,500)	-6	-952	-2	-1,500	0	-1,500
	若手研究 (スタートアップ)	4	4,880	1	1,330	0	1,330	5	6,678	0	0	0	0	-1	-1,798	1	1,330	0	1,330
	小計	114 (17)	302,967 (27,000)	30 (17)	56,930 (27,000)	15,780 (7,920)	72,710 (34,920)	112 (25)	259,750 (30,000)	34 (25)	66,600 (39,700)	5,286	71,886 (39,700)	2	43,217	-4	-9,670	10,494	824
合計	180 (31)	555,675 (42,000)	48 (30)	79,230 (40,800)	15,780 (7,920)	95,010 (48,720)	186 (30)	442,839 (33,900)	50 (30)	89,800 (43,600)	5,286	95,086 (43,600)	-6	112,836	-2	-10,570	10,494	-76	

注 ()内の数字は、前年度からの継続分を示し内数。なお、申請と決定との差異は申請から決定までの間に転入・転出等の異動によるものである。

別表2 平成19年度 科学研究費補助金決定状況（間接経費含む）

【福岡医療短期大学】

（額の単位：千円）

区 分 種 類	平成19年度						平成18年度						前年度比較増減						
	申請件数	申請額	決定件数	決定額			申請件数	申請額	決定件数	決定額			申請件数	申請額	決定件数	決定額			
				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計	
文 部 科 学 省	特別推進研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定領域研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(B)	4	4,729	0	0	0	2	791	0	0	0	0	2	3,938	0	0	0	0	0
	小計	4 (0)	4,729 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	791 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	3,938 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
日 本 学 術 振 興 会	基盤研究(S)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(B)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(C)	11	11,629	2	2,100	630	2,730	9 (1)	10,599 (1,100)	1 (1)	1,100 (1,100)	0 (1,100)	1,100 (1,100)	2	1,030	1	1,000	630	1,630
	萌芽研究 <small>※ H19年度から 学術振興会に移管</small>	8	10,413	1	600	0	600	11	16,319	0	0	0	0	-3	-5,906	1	600	0	600
	若手研究 (スタートアップ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	19 (0)	22,042 (0)	3 (0)	2,700 (0)	630 (0)	3,330 (0)	20 (1)	26,918 (1,100)	1 (1)	1,100 (1,100)	0 (1,100)	1,100 (1,100)	-1	-4,876	2	1,600	630	2,230
合計	23 (0)	26,771 (0)	3 (0)	2,700 (0)	630 (0)	3,330 (0)	22 (1)	27,709 (1,100)	1 (1)	1,100 (1,100)	0 (1,100)	1,100 (1,100)	1	-938	2	1,600	630	2,230	

注 ()内の数字は、前年度からの継続分を示し内数。なお、申請と決定との差異は申請から決定までの間に転入・転出等の異動によるものである。

別表3 平成19年度研究業績（欧文）一覽

[福岡歯科大学]

1. 著書

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
口腔保健学	IX. Passive smoking in oral health research	Hanioka T, Fong CB ed, Ojima M	Nova science Publishers, Inc	-	-	213-230	2007
学術フロンティア	Evolutionary analysis of lipocalin-type prostaglandin D2 synthase	Ichihara H, Ragolia L, Kuma K, Urade Y, Toh H	Research Signpost	422	-	29-46	2007

2. 総説 (review含む)

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
咬合修復学	Lysine Hydroxylation of Collagen : an Important Posttranslational Modification for Physiological and Pathophysiological Conditions of General and Oral Connective Tissues	Matsuura T, Katafuchi M, Tokutomi K, Sato H	J Fukuoka Dent Coll	33	3	133-145	2007
生体構造学	Leukocyte adhesion molecule expressions on vascular endothelium	Sawa Y	J Fukuoka Dent Coll	33	4	159-170	2007
	Tuft Cells	Sato A	Anat Sci Int	82	4	187-199	2007
	Elastic system fiber: Its components and properties	Tsuruga E	J Fukuoka Dent Coll	33	4	171-181	2007
学術フロンティア	Structure of SixA, a Histidine Protein Phosphatase of the ArcB Histidine-Containing Phosphotransfer Domain in Escherichia coli	Hakoshima T, Ichihara H	Methods Enzymol	422	-	288-304	2007

3. 原著

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Association between vitamin D receptor gene haplotypes and chronic periodontitis among Japanese men	Naito M, Miyaki K, Naito T, Zhang L, Hoshi K, Hara A, Masaki K, Tohyama S, Muramatsu M, Hamajima N, Nakayama T	Int J Med Sci	4	4	216-222	2007
	Single or multiple visits for endodontic treatment?	Naito T	Evid Based Dent	9	-	24	2008
口腔治療学	Immunohistochemical localization of metallothionein in dental pulp after cavity preparation of rat molars	Izumi T, Eida T, Matsumoto N, Inoue H	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod	104	4	e133-137	2007
	Wound healing process of injured pulp tissues with Emdogain Gel	Kaida H, Hamachi T, Anan H, Maeda K	J Endod	34	1	26-30	2008
口腔治療学	The role of macrophages in the periodontal regeneration using Emdogain gel	Fujishiro N, Anan H, Hamachi T, Maeda K	J Periodont Res	43	2	143-155	2008

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
口腔治療学 (総合歯科学)	Susceptibility of type 2 diabetic mice to low-virulence bacterial infection - Induction of abscess formation by gingipain-deficient Porphyromonas gingivalis	Ishihara Y, <u>Anan H</u> , Yoneda M, Maeda K, Hirofuji T	J Periodontal Res	42	3	253-258	2007
咬合修復学	Reinforcing effect of glass-fiber-reinforced composite on flexural strength at the proportional limit of denture base resin	<u>Tsue F</u> , <u>Takahashi Y</u> , <u>Shimizu H</u>	Acta Odontol Scand	65	3	141-148	2007
	Biochemical characterization of collagen in alveolar mucosa and attached gingiva of pig	<u>Katafuchi M</u> , <u>Matsuura T</u> , <u>Atsawasuwan P</u> , <u>Sato H</u> , <u>Yamauchi M</u>	Connect Tissue Res	48	2	85-92	2007
	Effect on the amount of bone-implant contact when splinting immediate-loaded dental implants	Matsuzaka K, Nakajima Y, Soejima Y, <u>Kido H</u> , <u>Matsuura M</u> , Inoue T	Implant Dent	16	3	309-316	2007
	Bonding of autopolymerizing acrylic resins to magnetic stainless steel alloys using metal conditioner	<u>Shimizu H</u> , <u>Tsue F</u> , <u>Chen ZX</u> , <u>Kawaguchi T</u> , <u>Takahashi Y</u>	J Dent	36	2	138-142	2008
	Use of metal conditioner on reinforcement wires to improve denture repair strengths	<u>Shimizu H</u> , <u>Mori N</u> , <u>Takahashi Y</u>	N Y State Dent J	74	2	26-28	2008
咬合修復学 (総合歯科学)	Failure probability of implant-supported restorations using highly filled all-composite crowns	<u>Shimizu H</u> , Hisama K, Kurtz KS, <u>Takahashi Y</u> , <u>Sato H</u>	Quintessence Int	38	7	e374-378	2007
咬合修復学 (口腔・顎顔面外科学)	Formation of titanium oxide/titanium/plastic composites	<u>Watazu A</u> , <u>Ieraoka K</u> , <u>Kido H</u> , <u>Morinaga K</u> , <u>Okamatsu K</u> , <u>Nagashima Y</u> , <u>Matsuura M</u> , <u>Saito N</u>	Key Eng Mater	361-363	-	487-490	2008
咬合修復学 (生体構造学)	Ultrastructure of the interface between titanium and surrounding tissue in rat tibias-A comparison study on titanium-coated and -uncoated plastic implants	<u>Okamatsu K</u> , <u>Kido H</u> , <u>Sato A</u> , <u>Watazu A</u> , <u>Matsuura M</u>	Clin Implant Dent Relat Res	9	2	100-111	2007
成長発達歯学	Measurement of bone conduction characteristics for transmitted vibration sounds of tooth drilling	<u>Ozaki M</u> , <u>Baba A</u> , <u>Ishii K</u> , <u>Takagi H</u> , <u>Motokawa W</u>	Pediatric Dent J	17	2	148-155	2007
	Photoelastic stress analysis of mandibular molars moved distally with the skeletal anchorage system(SAS)	<u>Nakamura A</u> , <u>Teratani T</u> , <u>Itoh H</u> , <u>Sugawara J</u> , <u>Ishikawa H</u>	Am J Orthod Dentofacial Orthop	132	5	624-629	2007
成長発達歯学 (生体構造学)	Expression of junctional adhesion molecules on the human lymphatic endothelium	<u>Ueki T</u> , <u>Iwasawa K</u> , <u>Ishikawa H</u> , <u>Sawa Y</u>	Microvasc Res	75	2	269-278	2008
	Effects of basic fibroblast growth factor administration on vascular changes in wound healing of rat palates	<u>Hata Y</u> , <u>Kawanabe H</u> , <u>Hisanaga Y</u> , <u>Taniguchi K</u> , <u>Ishikawa H</u>	Cleft Palate Craniofac J	45	1	63-72	2008
	Effects of bFGF on suppression of collagen type I accumulation and scar tissue formation during wound healing after mucoperiosteal denudation of rat palate	<u>Choi W</u> , <u>Kawanabe H</u> , <u>Sawa Y</u> , <u>Taniguchi K</u> , <u>Ishikawa H</u>	Acta Odontol Scand	66	1	31-37	2008
総合医学	A health-economic evaluation of aspirin: primary prevention and cardiovascular disease	<u>Sakai T</u> , <u>Saku K</u>	Intern Med	46	8	431-433	2007

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
口腔保健学	Patient feedback as a motivating force to quit smoking	Hanioka T, Ojima M, Hamajima N, Naito M	Community Dent Oral Epidemiol	35	4	310-317	2007
	Association of total tooth loss with smoking, drinking, alcohol and nutrition in elderly Japanese: Analysis of national database	Hanioka T, Ojima M, Tanaka K, Aoyama H	Gerodontology	24	2	87-92	2007
	Relationship between smoking status and tooth loss: Findings from national databases in Japan	Hanioka T, Ojima M, Tanaka K, Aoyama H	J Epidemiol	17	4	125-132	2007
	Cigarette smoking and tooth loss experience among young adults: a national record linkage study	Ojima M, Hanioka T, Tanaka K, Aoyama H	BMC Public Health	7	-	313	2007
口腔保健学 (機能生物化学)	Long-term effect of xylitol gum use on mutans streptococci in adults	Haresaku S, Hanioka T, Tsutsui A, Yamamoto M, Cho T, Gunjishima Y	Caries Res	41	3	198-203	2007
機能生物化学	Alphal-adrenergic receptor stimulation induces the expression of receptor activator of nuclear factor kappaB ligand gene via protein kinase C and extracellular signal-regulated kinase pathways in MC3T3-E1 osteoblast-like cells	Nishiura T, Abe K	Arch Oral Biol	52	8	778-785	2007
	Transcriptional changes in Candida albicans genes by both farnesol and high cell density at an early stage of morphogenesis in N-acetyl-D-glucosamine medium	Cho T, Aoyama T, Toyoda M, Nakayama H, Chibana H, Kaminishi H	Nippon Ishinkin Gakkai Zasshi	48	4	159-167	2007
歯科医療工学	Enhancement of B(E2) ↑ and low excitation of the second O+ state near N=40 in Ge isotopes	Hasegawa M, Mizusaki T, Kaneko K, Sun Y	Nucl Phys A	789	1-4	46-54	2007
	Phase transition in exotic nuclei along the N=Z line	Hasegawa M, Kaneko K, Mizusaki T, Sun Y	Phys Lett B	656	-	51-55	2007
	Fabrication of porous low crystalline calcite block by carbonation of calcium hydroxide compact	Matsuya S, Lin X, Udoh K, Nakagawa M, Shimogoryo R, Terada Y, Ishikawa K	J Mater Sci Mater Med	18	7	1361-1367	2007
	Comparison of the effects of added alpha- and beta- tricalcium phosphate on the basic properties of apatite cement	Nakagawa A, Matsuya S, Takeuchi A, Ishikawa K	Dent Mater J	26	3	342-347	2007
	Long-term follow-up of composite resin restorations with self-etching adhesives	Unemori M, Matsuya Y, Hyakutake H, Matsuya S, Goto Y, Akamine A	J Dent	35	6	535-540	2007
	Development of macropores in calcium carbonate body using novel carbonation method of calcium hydroxide/sodium chloride composite	Lee Y, Hahn Y-M, Matsuya S, Nakagawa M, Ishikawa K	J Mater Sci	42	14	5728-5735	2007
	Characterization of macroporous carbonate-substituted hydroxyapatite bodies prepared in different phosphate solutions	Lee Y, Hahn Y-M, Matsuya S, Nakagawa M, Ishikawa K	J Mater Sci	42	18	7843-7849	2007

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
歯科医療工学	Transformation of 3DP gypsum model to HA by treating in ammonium phosphate solution	Lowmunkong R, Sohmura T, Takahashi J, Suzuki Y, <u>Matsuya S</u> , Ishikawa K	J Biomed Mater Res B Appl Biomater	80	2	386-393	2007
歯科医療工学 (成長発達歯学) (福岡医療短期大学)	Studies on the rate of oral calcium phosphates precipitation and on the crystallinity of the precipitates. II. Effects of ferric and indium ions	Hidaka S, <u>Okamoto Y</u> , Tsukamoto S	J Fukuoka Dent Coll	34	1	7-18	2008
歯科医療工学 (生体構造学) (福岡医療短期大学)	Drug binding and releasing characteristics of DNA/lipid/PLGA film	Fukushima T, <u>Kawaguchi M</u> , Hayakawa T, Takeda S, Inoue Y, Ohno J, Taniguchi K	Dent Mater J	26	6	854-860	2007
歯科医療工学 (福岡医療短期大学)	Preparation and tissue response of lipid-coated b-FGF	Hayakawa T, <u>Fukushima T</u> , <u>Kawaguchi M</u> , Inoue Y	J Oral Tissue Engin	5	2	96-103	2007
生体構造学	Localization of protin subunit in the salivary glands, kidney and pancreas of the Japanese monkey, Macaca Fuscata	<u>Yahiro J</u> , <u>Miyoshi S</u>	J Nara Medic Assoc	59	1-2	43-51	2008
生体構造学 (成長発達歯学)	Effects of TNF-alpha on leukocyte adhesion molecule expressions in cultured human lymphatic endothelium	<u>Sawa Y</u> , <u>Sugimoto Y</u> , Ueki T, Ishikawa H, <u>Sato A</u> , <u>Nagato T</u> , <u>Yoshida S</u>	J Histochem Cytochem	55	7	721-733	2007
	LPS-induced IL-6, IL-8, VCAM-1, and ICAM-1 expression in human lymphatic endothelium	<u>Sawa Y</u> , Ueki T, Hata M, Iwasawa K, <u>Tsuruga E</u> , Kojima H, Ishikawa H, Yoshida S	J Histochem Cytochem	56	2	97-109	2008
細胞分子生物学 (咬合修復学)	Intracellular ClC-3 chloride channels promote bone resorption in vitro through organelle acidification in mouse osteoclasts	<u>Okamoto F</u> , <u>Kajiya H</u> , Toh K, Uchida S, Yoshikawa M, Sasaki S, Kido MA, Tanaka T, <u>Okabe K</u>	Am J Physiol Cell Physiol	294	3	C693-701	2008
細胞分子生物学 (口腔・顎顔面外科学)	Three Na ⁺ /Ca ²⁺ exchanger (NCX) variants are expressed in mouse osteoclasts and mediate calcium transport during bone resorption	Li JP, <u>Kajiya H</u> , <u>Okamoto F</u> , Nakao A, Iwamoto T, <u>Okabe K</u>	Endocrinology	148	5	2116-2125	2007
細胞分子生物学 (学術フロンティア)	Modes of Actions of Two Types of Anti-neoplastic Drugs, Dacarbazine and ACNU, to Induce Apoptosis	<u>Sanada M</u> , <u>Hidaka M</u> , Takagi Y, Takano TY, Nakatsu Y, Tsuzuki T, Sekiguchi M	Carcinogenesis	28	12	2657-2663	2007

4. 症例報告

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
咬合修復学	Anterior maxillary resin-bonded fixed partial denture to preserve occlusal surface area for anterior guidance. A clinical report	<u>Shimizu H</u> , <u>Takahashi Y</u>	N Y State Dent J	73	4	28-30	2007
	Preparation for posterior partial veneered restoration to maintain vertical dimension of occlusion	<u>Shimizu H</u> , <u>Takahashi Y</u>	N Y State Dent J	73	5	58-60	2007
	Tooth preparation design for anterior abutments of resin-bonded fixed partial dentures: A technical report	<u>Shimizu H</u> , <u>Takahashi Y</u>	Gen Dent	55	5	426-428	2007
	Highly filled composite partial coverage restorations with lingual rest seats and guide planes for removable partial dentures	<u>Shimizu H</u> , <u>Takahashi Y</u>	J Prosthet Dent	99	1	73-74	2008
	Resin-bonded castings with a cingulum rest seat and a guide plane for a removable partial denture: A case report	<u>Shimizu H</u> , <u>Takahashi Y</u> , McKinney T	Quintessence Int	39	1	87.e11-14	2008

()内は共著者の所属講座等

別表3 平成19年度研究業績（欧文）一覧

〔福岡医療短期大学〕

1. 原著

学科名	題名	著者名	発行元	巻	(号)	ページ	発行年
歯科衛生学科	Drug binding and releasing characteristics of DNA/lipid/PLGA film.	Fukushima T, Kawaguchi M, Hayakawa T, Takeda S, Inoue Y, Ohno J, Taniguchi K.	Dent Mater J.	26	6	854-860	2007
	Preparation and tissue response of lipid-coated b-FGF.	Hayakawa T, Fukushima T, Kawaguchi M, Inoue Y.	J Oral Tissue Engin.	5	2	96-103	2007
	Studies on the rate of oral calcium phosphates precipitation and on the crystallinity of the precipitates. II. Effects of ferric and indium ions.	Hidaka S, Okamoto Y, Tsukamoto S.	J Fukuoka Dent Coll.	34	1	7-18	2008

別表4 海外研修派遣一覧表

第1種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属講座	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
咬合修復学	大学院	徳富健太郎	留学 骨粗鬆症モデルマウス及びノーマルマウスの下顎骨、大腿骨の骨代謝回転の分析	ノースカロライナ大学 チャペルヒル(アメリカ)	19.6.1	19.8.31

④第1種海外研修派遣：1月以上1年以内研修

第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属講座	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
成長発達歯学	助教	川鍋仁	学会	シアトル(アメリカ)	19.5.18	19.5.23
咬合修復学	准教授	城戸寛史	学会	ラスベガス(アメリカ)	19.5.19	19.5.26
	講師	松永興昌	学会	ラスベガス(アメリカ)	19.5.20	19.5.27
	助教	藤加寿子	学会	ラスベガス(アメリカ)	19.5.20	19.5.27
咬合修復学	教授	佐藤博信	学会	ツルク(フィンランド) イエテボリ(スウェーデン)	19.5.21	19.5.28
学術フロンティア 研究センター	教授	関口睦夫	学会	マインツ(ドイツ) ナント(フランス)	19.6.11	19.6.21
咬合修復学	教授	松浦正朗	講演	長春(中国)	19.6.21	19.6.24
診断・全身管理学	助教	香川豊宏	学会	北京(中国)	19.6.25	19.6.30
口腔・顎顔面外科学	助教	泉喜和子	研修	ソウル(韓国)	19.7.22	19.7.26
成長発達歯学	教授	石川博之	講演	台北(台湾)	19.7.28	19.7.30
総合歯科学	助教	鈴木奈央	学会	シカゴ(アメリカ) トロント(カナダ)	19.8.21	19.8.29
咬合修復学	教授	松浦正朗	講演・研究打合せ	北京・上海(中国)	19.8.24	19.8.29
咬合修復学	准教授	城戸寛史	講演	北京(中国)	19.8.24	19.8.27
総合医学	准教授	堺孝明	学会	ウィーン(オーストリア)	19.9.1	19.9.7
細胞分子生物学	教授	岡部幸司	学会	ホノルル(アメリカ)	19.9.15	19.9.21
	助教	鍛冶屋浩	学会	ホノルル(アメリカ)	19.9.15	19.9.21
咬合修復学	助教	片渕三千綱	学会	ホノルル(アメリカ)	19.9.15	19.9.21
咬合修復学	教授	松浦正朗	講演	台北(台湾)	19.10.5	19.10.8
総合歯科学	講師	内藤徹	学会	サンパウロ(ブラジル) ワシントン(アメリカ)	19.10.20	19.11.1
咬合修復学	准教授	城戸寛史	学会	バルセロナ(スペイン)	19.10.24	19.10.29
成長発達歯学	教授	本川涉	協臨および院生引率	ソウル(韓国)	19.10.7	19.10.14
生体構造学	教授	谷口邦久	協臨および院生引率	ソウル(韓国)	19.10.14	19.10.20
咬合修復学	教授	松浦正朗	研修	上海(中国)	19.11.1	19.11.4
歯科医療工学	教授	松家茂樹	研究打合せ	ロンドン・バーミンガム(イギリス)	19.12.6	19.12.13

所属講座	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
咬合修復学	准教授	城戸寛史	学会	ボストン・ニューヨーク (アメリカ)	20. 2. 27	20. 3. 6
	講師	松永興昌	学会	ボストン・ニューヨーク (アメリカ)	20. 2. 27	20. 3. 6
口腔・顎顔面外科学	講師	長島義之	学会	ボストン・ニューヨーク (アメリカ)	20. 2. 27	20. 3. 6
総合歯科学	教授	廣藤卓雄	視察研修	ロマリング、ロサンゼルス(アメリカ)	20. 3. 1	20. 3. 10
	講師	内藤徹	視察研修	ロマリング、ロサンゼルス(アメリカ)	20. 3. 1	20. 3. 10
咬合修復学	教授	高橋裕	視察	ツルク(フィンランド)	20. 3. 10	20. 3. 14
口腔治療学	教授	阿南壽	視察	ツルク(フィンランド)	20. 3. 10	20. 3. 14
診断・全身管理学	教授	湯浅賢治	協働および学生引率	上海(中国)	20. 3. 16	20. 3. 23
口腔治療学	准教授	泉利雄	協働および学生引率	上海(中国)	20. 3. 16	20. 3. 23
口腔・顎顔面外科学	教授	大関悟	調査・医療援助活動	ヤンゴン、マンダレー、ピイ(ミャンマー)	20. 3. 16	20. 3. 31
	助教	泉喜和子	調査・医療援助活動	ヤンゴン、マンダレー、ピイ(ミャンマー)	20. 3. 16	20. 3. 31
機能生物化学	准教授	長 環	学会	ニューヨーク (アメリカ)	20. 3. 23	20. 3. 30

④第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等

第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡医療短期大学

所属分野	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
保健福祉学科	教授	高瀬文広	学会	慶州(韓国)	19. 4. 20	19. 4. 22
歯科衛生学科	教授	日高三郎	学会	メルボルン(オーストラリア)	19. 9. 9	19. 9. 15
歯科衛生学科	准教授	廣瀬武尚	学生引率	釜山(韓国)	19. 9. 13	19. 9. 15
	准教授	松尾忠行				
	助教	貴島聡子				
歯科衛生学科	教授	緒方稔泰	学生引率	ロスアンゼルス(アメリカ)	19. 9. 15	19. 9. 29

④第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等

別表5

平成19年度地域貢献一覧表

実施事業	内 容
歯の無料相談	「歯の衛生週間」にちなみ、「歯の無料相談」を毎年開催。平成19年度は、6月3日に西新エルモールプラリバで開催、130名の相談者が来場した。
出前講義	公民館、小学校などを対象に、病院診療科の教授、准教授等が「歯の話、お口の話、健康の話」をテーマに、福岡市内30箇所の出前講義（お話し）を行った。
運動場、テニスコート、体育館の開放	地元ソフトボールチーム、野球チームを始め早良区壮年ソフトボール大会等、ほぼ毎週運動場、テニスコート、体育館等体育施設の地域への開放を行った。
公園清掃	田新町が町内行事として月1回実施している田村北公園の清掃に介護老人保健施設等の職員が毎回参加し、地域との交流を深めるとともに、清掃後、理学療法士等によるリハビリ体操の指導を行った。
作業療法士及び理学療法士の講師派遣	田村校区の依頼で介護老人保健施設の作業療法士及び理学療法士等が転倒骨折予防、腰痛・膝痛予防のための体操指導や講演を行うようにしている。
夏祭り、学園祭での交流	7月に開催された田新町の夏祭りに福岡歯科大学学友会ミュージックアソシエーションクラブのバンドが出演し、夏祭りを盛り上げた。その他、田村校区の子供会で組織するダンスチームや隣接の中学校吹奏楽部が学園祭にゲスト出演、また地域団体が学園祭バザーに参加した。
早良区共働モデル創造支援事業	福岡歯科大学は、早良区四箇田公民館において「わくわく科学教室」を3回開催し、小学校4～6年生延29名が参加した。 福岡医療短期大学は、9月19日に「元気のもと、食べること、きれいなお口は元気のもと」を開催し、田村小学校児童103名と引率教員4名、田村校区老人クラブ連合会会員13名と短大生122名が参加し、栄養と食事、口の働きと口の清掃について講義及び体験授業を行った。
短大教員ボランティア活動	地域活性化ボランティア活動の取り組みとして、キャンパス内のさくら館において定期的に開催されている田新町老人会会員の集いに短大教員並びに専攻科学生が話題提供の形式で参加している。9月から3月まで計7回参加した。

別表6 平成19年度公開講座一覧表

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
平成19年度福岡歯科大学臨床セミナー（公開講座）	平成19年4月から20年3月まで（福岡歯科大学本館6階602講義室他）	医療関係者を対象に通算24回実施 参加者延べ1,728名（研修歯科医を含む）
「福岡で学ぼう2007」 アカデミック・カフェ	平成19年7月10日（中村学園大学と本学担当、博多区下川端町のカフェ）	福岡都市圏17大学の講師による出前講義。そのうち、本学は中村学園大学と開催。テーマ「口腔医学の最前線～美容医療と審美歯科」 参加者40名
福岡歯科大学公開講座	平成19年9月8日（福岡県歯科医師会館5階視聴覚室）	「お口とお顔の若返り～口腔と顔面の美容とアンチエイジング～」 ①「きれいな口元、きれいな歯で若返り」、②「顎のかたちを美しく」、③「シミ、シワ、タルミの正しい予防と治療—アンチエイジング医療の理解のために—」 参加者116名
「健康まるごと福岡歯科学園」	平成19年10月27日～28日（福岡歯科学園）	1. 講演会 「スーダンからの熱きメッセージ」（講師：NPO ロシナンテス 理事長 川原尚行氏） 2. 「からだの科学展」 3. 医科・歯科無料相談 4. 介護施設見学・介護無料相談 5. 短大企画「ご用心！お口と介護」 各イベント参加者合計835人
平成19年度地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウム	平成19年11月3日（中村学園大学西1号館10階大講義室）	メインテーマ「メタボリックシンドロームをいかに克服するか」 第一部講演、第二部公開討論（参加者からの質問に回答する形式）。 本学、福岡大学、中村学園大学の合同開催。参加者250名
福岡歯科大学学会総会特別講演	平成19年12月9日（福岡県歯科医師会館）	・シンポジウム「口元の美しさ」 4名のシンポジストによる講演 ・招待講演「前歯部の審美補綴」（講師：張健中・上海交通大学口腔医学院教授） 参加者277名
学術フロンティア研究シンポジウム	平成19年7月10日（福岡歯科大学本館6階601講義室他）他、全3回	3回のうち1回（10月29日）は、国内外の共同研究者が参加した国際シンポジウムとして開催した。 参加者延約150名

名 称	開催日・会場	テーマ・参加人員
学術フロンティア 研究・大学院セミ ナー（大学院特別 講義）	平成 19 年 4 月 5 日（福 岡歯科大学本館 5 階 501 講義室他）他、全 5 回	「新規ビタミン D 拮抗薬 (TEI-9647) の骨代謝における作用機序と Paget's 病（変形性骨炎）治療への 応用）」他 全 5 回、参加者 131 人
大学院特別講義	平成 19 年 4 月 11 日（福 岡歯科大学本館 5 階 501 講義室他）他、全 6 回	「顎骨欠損再建症例におけるインプ ラントによる機能回復について」他
福岡医療短期大学 公開講座	平成 19 年 9 月 30 日（福 岡医療短期大学 307 教 室）	「高齢者の生活支援—元気で口から 食べたい—」 参加者 99 名（学外）
	平成 19 年 8 月 19 日（福 岡医療短期大学 307 教 室、1 階コミュニティー ホール）他、全 3 回	特色 GP による補助事業として『口腔 ケア実践教室』を地域の介護職員な どを対象として開催。

別表7 平成19年度 外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研修名	主催	場所	参加者
企画課	6月	日常業務に必要な法律知識	NBC経営情報サービス	福岡	田島
	6月	接客応対力向上セミナー	NBC経営情報サービス	福岡	桑野
	6月	効率的な時間活用の仕事術	NBC経営情報サービス	福岡	今林
総務課	6月	大学人コミュニケーション力養成セミナー	八王子セミナーハウス	八王子	藤木
	7月	防火管理者講習会	消防局	福岡	香月
	7月	競争的研究資金制度に関する協議会	私立大学協会	東京	榑崎
	7月	女性リーダーパワーアップセミナー	NBC経営情報サービス	福岡	田村
	7月	私学共済事務研修会	私学事業団	広島	赤坂
	7月	私学共済事務研修会	私学事業団	大阪	中村
	7月	大学中堅職員のためのマネジメント力研修	日本能率協会	東京	榑崎
	8月	給与実務研修会	日本人事行政研究所	東京	赤坂
	9月	人事院勧告セミナー	私学経営研究会	東京	藤木
	11月	九州地区私立大学事務連絡協議会	九州地区私立大学協議会	大分	赤坂
	12月	分限処分・懲戒処分実務研修会	日本人事行政研究所	東京	藤木
	1月	私学共済事務担当者研修会	日本私立学校総連・共済事業団	福岡	上月
	2月	給与法及び関係規則等の改正・給与実務	日本人事行政研究所	東京	赤坂
財務課	4月	学校基本調査説明会	文部科学省	熊本	豊福
	4月	新入社員実務基本コース	日本能率協会	福岡	豊福
	5月	危険物乙種第4種試験準備講習	消防試験研究センター	福岡	豊福
	6月	日常業務に必要な法律知識	NBC経営情報サービス	福岡	佐々木
	6月	能力向上セミナー	NBC経営情報サービス	福岡	八尋
	6月	学校法人会計セミナー	私学経営研修会	福岡	石橋・豊福
	7月	女性リーダーパワーアップセミナー	NBC経営情報サービス	福岡	西嶋
	9月	日本私立大学協会九州支部事務研修会	長崎国際大学	福岡	松添
	10月	経理課部課長相当者研修会	私立大学協会	広島	松添
	11月	学校法人経理事務担当者研修会	文部科学省	東京	上杉
	1月	危険物取扱者試験講習	福岡市危険物安全協会	福岡	加藤
施設課	5月	小型建設機械免許講習会	日立建機	福岡	林
	6月	第三種冷凍機械講習会	博多パークホテル	福岡	土生
	7月	電験三種受験対策講習会	九州電気協会	福岡	小山
	7月	消防設備点検資格者講習	日本消防設備安全センター福岡	福岡	西田
	9月	電験主任技術者実務講習会	九州電気保安協会	福岡	森永・大神
	9月	第2種消防設備点検資格者講習	福岡市防災協会	福岡	西田
学務課	4月	新入社員実務基本コース	日本能率協会	福岡	石田
	7月	留学生研究協議会	日本学生支援機構	東京	箱田
	9月	日本私立大学協会九州支部事務研修会	長崎国際大学	福岡	箱田
	10月	第5回SDフォーラム	大学コンソーシアム京都	京都	田中
	11月	国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	医学教育開発研究センター	岐阜	明石
情報図書館課	4月	SQL Sever 2005システム管理	富士通ラーニング	大阪	秋吉
	6月	ネットワークの基礎	富士通ラーニング	福岡	谷川
	10月	CISCO CCVA 短期集中	富士通ラーニング	東京	秋吉
	10月	大学改革力強化コース	日本能率協会	東京	松村
	12月	九州地区医学図書館員セミナー	九州地区医学図書館協議会	鹿児島	白水
	1月	システム管理者の為のWindows Server 2003	富士通ラーニング	東京	秋吉
病院事務課	6月	効率的な時間活用の仕事術	NBC経営情報サービス	福岡	宗
	7月	女性リーダーパワーアップセミナー	NBC経営情報サービス	福岡	白石
短大事務課	6月	効率的な時間活用の仕事術	NBC経営情報サービス	福岡	牛之濱
	7月	大学中堅職員のためのマネジメント力研修	日本能率協会	東京	大西
	10月	大学改革力強化コース	日本能率協会	東京	本山
	10月	私立短大教務相当者研修会	私学研福社	名古屋	伊藤

別表 8 平成19年度病院職員教育研修（講習会）実施一覧表

開催日	場所	対象	講師	タイトル
平成19年5月8日	901教室	病院教職員	湯浅 賢治	H I S 運用説明会
平成19年5月9日	901教室	病院教職員	湯浅 賢治	H I S 運用説明会
平成19年5月30日	701教室	新規採用者	小島 寛	歯科におけるスタンダードプレコーション ーもしも唾液が赤かったらー
			渡邊 昭博	手洗いと針刺し事故予防
			鴻江 俊治	インシデント・アクシデントレポート
平成19年7月19日	901教室	病院教職員	西藤 孝子	患者中心の接遇基本
平成19年10月10日	901教室	病院教職員	平田創一郎	医療の安全を確保するために～考え方と制度改正への対応～
平成19年11月17日	503教室	病院教職員	真鍋 脩三	学内救急蘇生講習会
平成19年11月20日	701教室	病院教職員	鴻江 俊治	医療安全集中管理システム（SafeMaster）の説明会
平成19年11月21日	701教室	病院教職員	鴻江 俊治	医療安全集中管理システム（SafeMaster）の説明会
平成19年11月28日	901教室	病院教職員	松浦 正朗	口腔顔面美容医療センターの紹介
平成19年11月28日	901教室	病院教職員	鴻江 俊治	当院における院内感染対策の概要
平成19年12月6日	701教室	病院教職員	平田創一郎	医療の安全を確保するために～考え方と制度改正への対応～ビデオ講演会
平成19年12月7日	701教室	病院教職員	平田創一郎	医療の安全を確保するために～考え方と制度改正への対応～ビデオ講演会
平成20年1月	各研究室	病院教職員	平田創一郎	医療の安全を確保するために～考え方と制度改正への対応～ビデオ講演会（ビデオデータ貸出しによるもの）
平成20年1月	各研究室	病院教職員	渡邊 昭博	院内感染防止に関する研修会のレジメによる各自実習
平成20年1月18日	801教室	病院教職員	鴻江 俊治	病院機能評価受審対応についての説明会
平成20年2月26日	901教室	病院教職員	小島 寛	診療録記載に関する講習会

別表9 資金収支総括表

(単位:千円)

科 目		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,626,265	3,623,923	3,667,840	3,736,272	3,607,370
	手数料収入	42,881	41,861	39,180	33,032	28,836
	寄附金収入	44,417	15,596	27,453	32,050	27,510
	補助金収入	623,022	752,302	444,378	667,426	505,260
	資産運用収入	597,628	622,017	702,086	769,747	840,554
	資産売却収入	411,926	57,186	0	0	121,459
	事業収入	1,484,805	1,647,390	1,678,206	1,600,062	1,698,451
	雑収入	115,002	100,458	246,645	242,213	182,637
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	846,145	843,738	834,183	809,855	772,975
	その他の収入	328,900	371,686	478,026	5,786,081	2,335,922
	資金収入調整勘定	△ 1,600,390	△ 1,311,614	△ 1,254,163	△ 1,463,154	△ 1,235,117
	小計	6,520,601	6,764,543	6,863,834	12,213,584	8,885,857
	前年度繰越支払資金	2,082,395	1,612,614	1,832,018	2,107,356	1,732,395
合計	8,602,996	8,377,157	8,695,852	14,320,940	10,618,252	
支出の部	人件費支出	3,033,073	3,116,407	3,439,475	3,467,840	3,453,389
	教育研究経費支出	1,014,066	1,012,249	1,099,979	1,125,224	1,376,225
	管理経費支出	194,885	200,305	201,552	217,261	218,215
	借入金等返済支出	0	105,864	0	0	0
	施設関係支出	435,666	92,260	14,970	39,360	37,046
	設備関係支出	293,030	421,684	174,054	486,107	146,440
	資産運用支出	2,139,560	1,545,987	1,796,243	7,308,237	3,713,746
	その他の支出	261,844	387,598	395,181	539,400	607,144
	資金支出調整勘定	△ 381,742	△ 337,215	△ 532,958	△ 594,884	△ 398,250
	小計	6,990,382	6,545,139	6,588,496	12,588,545	9,153,955
	次年度繰越支払金	1,612,614	1,832,018	2,107,356	1,732,395	1,464,297
	合計	8,602,996	8,377,157	8,695,852	14,320,940	10,618,252

別表10 消費収支総括表

(単位:千円)

科 目		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
消費 収入 の 部	学生生徒等納付金(ア)	3,626,265	3,623,923	3,667,840	3,736,272	3,607,370
	手 数 料	42,881	41,861	39,180	33,032	28,836
	寄 附 金 (イ)	63,234	54,367	65,768	52,460	46,588
	補 助 金 (ウ)	623,022	752,302	444,378	667,426	505,260
	資 産 運 用 収 入	597,628	622,017	702,086	769,747	840,554
	資 産 売 却 差 額 (エ)	308,431	18,172	0	0	0
	うち、有価証券売却差額	0	0	0	0	0
	事 業 収 入	1,484,805	1,647,390	1,678,206	1,600,062	1,698,451
	雑 収 入	115,073	100,458	246,645	242,890	182,636
	合 計 (オ)	6,861,339	6,860,490	6,844,103	7,101,889	6,909,695
基 本 金 組 入 額 (カ)	△ 1,536,411	△ 838,978	△ 1,665,218	△ 1,411,715	△ 1,993,206	
	(第1号基本金組入額)	△ 196,851	△ 230,478	△ 73,718	△ 14,805	△ 72,126
	(第2号基本金組入額)	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000
	(第3号基本金組入額)	△ 619,560	△ 8,500	△ 991,500	△ 796,910	△ 1,321,080
	(第4号基本金組入額)	△ 120,000	0	0	0	0
消費収入(オ+カ)(キ)	5,324,928	6,021,512	5,178,885	5,690,174	4,916,489	
消費 支出 の 部	人 件 費 (ク)	3,064,438	3,114,571	3,316,909	3,333,013	3,582,581
	教 育 研 究 経 費 (ケ)	1,520,611	1,499,942	1,624,249	1,605,584	1,861,818
	うち、減価償却	503,661	492,448	513,746	482,334	481,154
	管 理 経 費 (コ)	230,001	232,603	234,707	249,201	260,428
	うち、減価償却	35,440	32,397	32,609	32,113	30,900
	借 入 金 等 利 息 (サ)	0	0	0	0	0
	資 産 処 分 差 額 (シ)	89,796	109,816	7,089	19,650	22,521
	うち、有価証券処分差額	0	0	0	0	0
	うち、有価証券評価差額	0	0	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額 (又は徴収不能額)(ス)	550	0	0	1,746	0
消費支出合計(セ)	4,905,397	4,956,933	5,182,954	5,209,194	5,727,347	
当年度消費収入超過額(キ-セ) (又は△当年度消費支出超過額)	419,531	1,064,579	△ 4,069	480,980	△ 810,858	
前年度繰越消費収入超過額 (又は△前年度繰越消費支出超過額)	2,445,104	2,864,636	4,183,498	4,179,556	4,674,411	
(何) 年度消費支出準備金繰入額	0	0	0	0	0	
(何) 年度消費支出準備金取崩額	0	0	0	0	0	
基本金取崩額	0	254,283	127	13,875	22,590	
翌年度繰越消費収入超過額 (又は△翌年度繰越消費支出超過額)	2,864,636	4,183,498	4,179,556	4,674,411	3,886,143	
帰属収支差額(オ)-(セ)	1,955,942	1,903,557	1,661,149	1,892,695	1,182,348	

別表11 貸借対照表

(単位:千円)

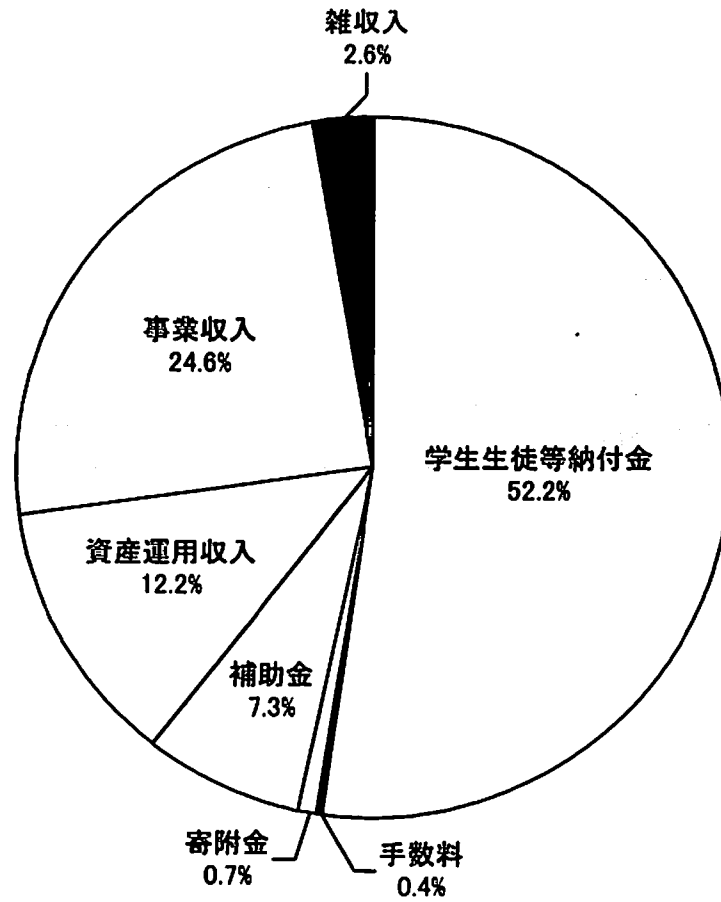
資 産 の 部						負 債 ・ 基 本 金 及 び 消 費 収 支 差 額 の 部					
科 目	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	科 目	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
固 定 資 産 (a)	43,239,615	44,658,364	46,127,500	48,117,492	49,666,351	負 債 (e)	4,082,035	3,969,443	3,979,800	3,916,337	3,806,792
有 形 固 定 資 産	11,174,096	11,053,135	10,727,030	10,738,778	10,395,566	固 定 負 債 (f)	2,655,213	2,582,801	2,460,235	2,325,408	2,454,600
うち、土地	2,878,699	2,856,199	2,853,955	2,853,955	2,853,955	うち、長期借入金	70,576	0	0	0	0
うち、建物	5,261,336	5,028,478	4,798,380	4,582,714	4,394,721	うち、学校債	0	0	0	0	0
うち、構築物	274,830	266,617	259,065	257,714	240,390	うち、退職給与引当金	2,582,105	2,580,270	2,457,704	2,322,877	2,452,069
うち、教育研究用機器備品	1,444,790	1,547,084	1,420,249	1,608,269	1,431,276	流 動 負 債 (g)	1,426,822	1,386,642	1,519,565	1,590,929	1,352,192
その他の固定資産(i)	32,065,519	33,605,229	35,400,470	37,378,714	39,270,785	うち、短期借入金	35,288	0	0	0	0
うち、収益事業元入金	0	0	0	0	0	うち、前受金(h)	846,145	843,738	834,183	809,855	772,975
うち、減価償却引当特定資産	8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,946,000	基 本 金 (i)	38,301,733	38,886,427	40,551,518	41,949,358	43,919,974
流 動 資 産 (b)	2,008,788	2,381,004	2,583,374	2,422,614	1,946,558	ア第1号基本金	20,560,753	20,536,947	20,610,538	20,611,468	20,661,004
うち、現金・預金(c)	1,612,614	1,832,019	2,107,356	1,732,395	1,464,298	イ第2号基本金	4,600,000	5,200,000	5,800,000	6,400,000	7,000,000
うち、有価証券	0	0	0	0	0	ウ第3号基本金	12,720,980	12,729,480	13,720,980	14,517,890	15,838,970
その他	396,174	548,985	476,018	690,219	482,260	エ第4号基本金	420,000	420,000	420,000	420,000	420,000
合 計 (d)	45,248,403	47,039,368	48,710,874	50,540,106	51,612,909	消 費 収 支 差 額 (j)	2,864,636	4,183,498	4,179,556	4,674,411	3,886,143
						(何) 年度消費支出準備金	0	0	0	0	0
						翌年度繰越消費収入超過額又は△翌年度繰越消費支出超過額	2,864,636	4,183,498	4,179,556	4,674,411	3,886,143
						合 計 (e)+(i)+(j)	45,248,403	47,039,368	48,710,874	50,540,106	51,612,909
						減価償却額の累積額の合計額	9,423,118	9,588,631	10,029,460	10,050,531	10,382,773
						基本金未組入額(k)	143,792	55,427	51,530	83,419	22,913

別表12 財務比率表

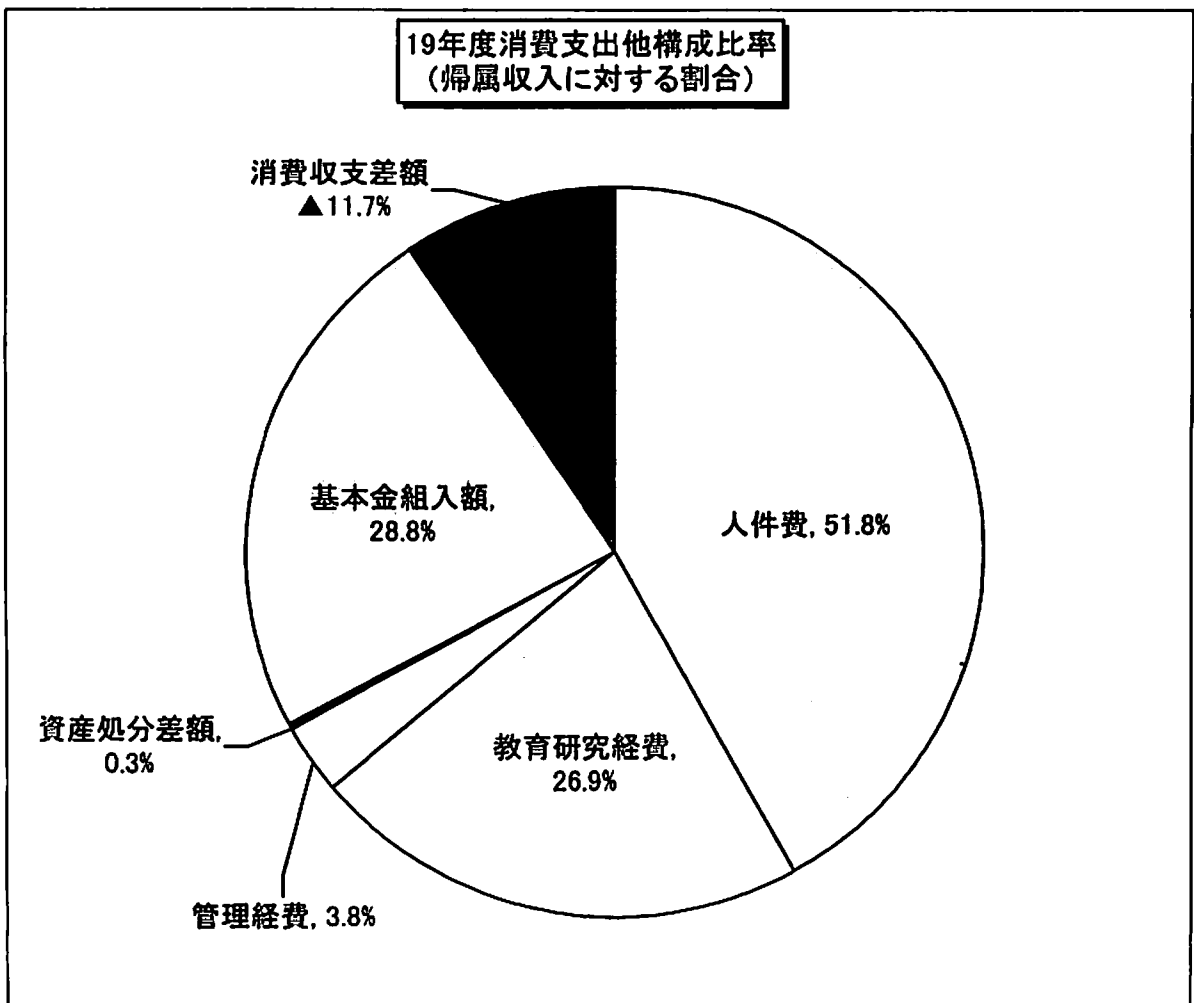
分類	比 率	算 式 (×100)	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額 (j)}}{\text{総 資 金 (e) + (i) + (j)}}$	6.3%	8.9%	8.6%	9.2%	7.5%
	基本金比率	$\frac{\text{基 本 金 (i)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	99.6%	99.9%	99.9%	99.8%	99.9%
	固定比率	$\frac{\text{固 定 資 産 (a)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	105.0%	103.7%	103.1%	103.2%	103.9%
	その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産 (l)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	70.9%	71.4%	72.7%	74.0%	76.1%
	流動比率	$\frac{\text{流 動 資 産 (b)}}{\text{流 動 負 債 (g)}}$	140.8%	171.7%	170.0%	152.3%	144.0%
	前受金保有率	$\frac{\text{現 金 預 金 (c)}}{\text{前 受 金 (h)}}$	190.6%	217.1%	252.6%	213.9%	189.4%
	総負債比率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{総 資 産 (d)}}$	9.0%	8.4%	8.2%	7.7%	7.4%
	負債率	$\frac{\text{総 負 債 (e)}}{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}$	9.9%	9.2%	8.9%	8.4%	8.0%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自 己 資 金 (i) + (j)}}{\text{基本金要組入額 (i) + (k)}}$	107.1%	110.6%	110.2%	110.9%	108.8%
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	$\frac{\text{人 件 費 (ク)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	44.7%	45.4%	48.5%	46.9%	51.8%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費 (ケ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	22.2%	21.9%	23.7%	22.6%	26.9%
	管理経費比率	$\frac{\text{管 理 経 費 (コ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	3.4%	3.4%	3.4%	3.5%	3.8%
	消費支出比率	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	71.5%	72.3%	75.7%	73.3%	82.9%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出 (セ)}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}$	135.3%	136.8%	141.3%	139.4%	158.8%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	52.9%	52.8%	53.6%	52.6%	52.2%
	寄附金比率	$\frac{\text{寄 附 金 (イ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	0.9%	0.8%	1.0%	0.7%	0.7%
	補助金比率	$\frac{\text{補 助 金 (ウ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	9.1%	11.0%	6.5%	9.4%	7.3%
	基本金組入率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額 (カ)}}{\text{帰 属 収 入 (オ)}}$	22.4%	12.2%	24.3%	19.9%	28.8%

別表13

19年度帰属収入構成比率

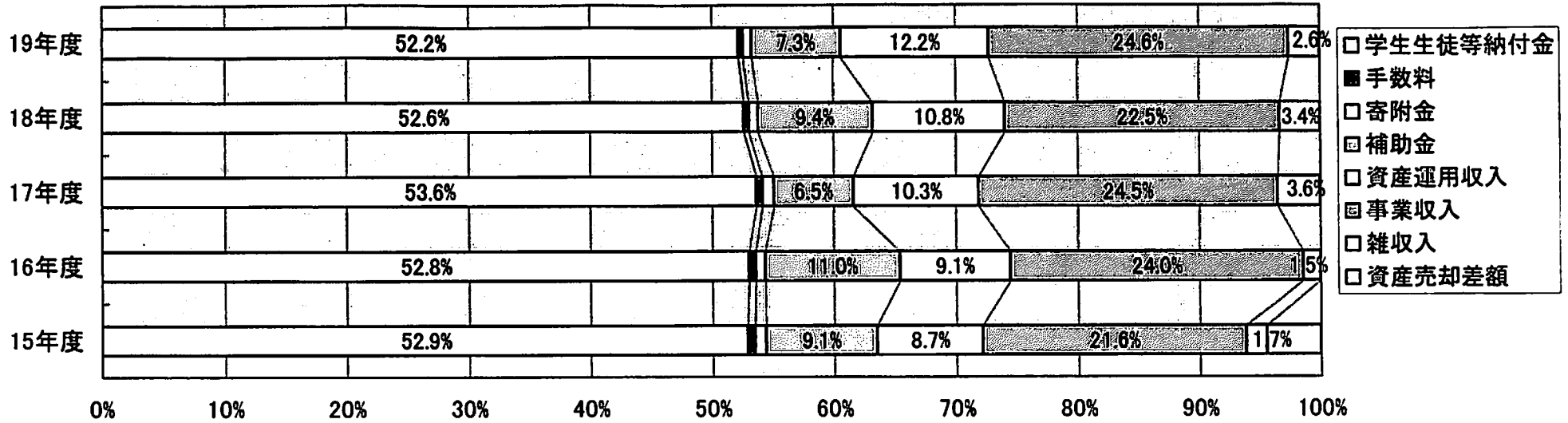


19年度消費支出他構成比率
(帰属収入に対する割合)



別表14

帰属収入科目構成比率年度別推移



消費支出科目等の帰属収入割合年度別推移

